


Sustainability Report 2014

不二製油グループ サステナビリティレポート WEB版フルレポート

二つとない、をつくる。
 **不二製油**

INDEX

2 社長インタビュー

2030年の「ありたい姿」に向けて取り組む
「ルネサンス不二 2016」とサステナブル経営



5 不二製油グループ新中期経営計画

「ルネサンス不二 2016」

新中期経営計画の前提となる基本的な考え方
基本方針
新しい価値を創出し社会に貢献



13 CSRマネジメント

サステナブル経営の推進

18 社会的価値の創出

健康・栄養
食資源
顧客満足の実践



27 人づくり

37 環境

52 サステナブル調達



持続的成長を支える体制

59 食の安全・安心・品質

68 地域・社会との共生

71 コーポレート・ガバナンス

74 コンプライアンス

78 リスクマネジメント

82 株主・投資家とのコミュニケーション



社長インタビュー



2030年の「ありたい姿」に向けて取り組む 持続可能な 「ルネサンス不二 2016」とサステナブル経営

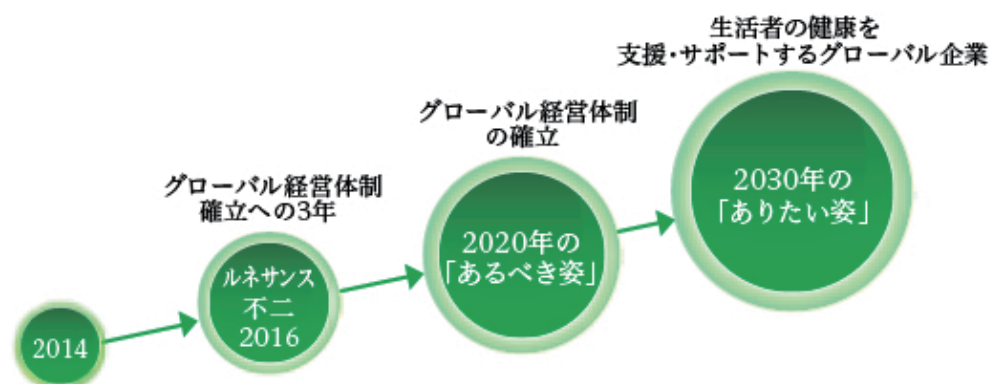
2014年度より新しい中期経営計画「ルネサンス不二 2016」がスタートしました。“不二”の原点に戻り、“新しい不二”を創るため、「ありたい姿」を描きながら、それを具体的施策とし、実効性のある活動を展開していくことを目指しています。清水洋史社長がその新しい計画を軸に、不二製油グループのサステナブル経営について語ります。

「ありたい姿」を示し具体的施策で遂行

2013年度に終えた前中期経営計画「Global & Quality 2013」を振り返ってください。

前中計では、目標とした経営の基本方針「グローバル経営」「技術経営」「サステナブル経営」の3本柱は思い描いていたように実現できたとは言い難く、内容が必ずしも全社員に深く理解されていなかったと反省しています。こうありたい、こうすべきという成長モデルを描ききれていなかったことが原因ではないかと考えています。

新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」にはどのような思いを込めていますか。



前回掲げた3大方針はそのまま継続しますが、計画のあり方は大きく変わります。内容のある計画にするために、まず目標とすべき将来像を示すこととし、「2030年ありたい姿」「2020年あるべき姿」を私たちが目指す姿として打ち出しました。ありたい姿とは「生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業」です。人の健康をサポートするためには、人が生きて

いる環境、例えば原材料を含めた地球環境を考えなければならない。地球が健康でなくて、人だけが健康になるというのはありえないからです。だから地球環境のことも考え、原料、動植物のことを考えることが、結局は、人の健康を考えることにつながるのです。

そのために求められる行動は何でしょうか？

「ルネサンス不二 2016」は、日本や世界の未来はどうなっているかも想像しながら、当社の今後3年を示すわけですが、そうすると現状とは大きなギャップが生じてきます。そのギャップを埋めるのがイノベーションです。それは技術に限らず、原料調達、生産、販売、人事組織・体制を含めた5分野で取り組まなくてはなりません。それには2つの軸で進めるべきです。1つは業務改革や事業改革で従来製品のコストダウンにつながるイノベーション。もう1つは、過去からの延長線上ではない発想から生まれるイノベーションです。

大豆の普及が社会貢献に直結

「ありたい姿」を目指すときに、CSRをどのように位置づけていますか？

「ありたい姿」を追求するにあたり、大事なことはCSRだと考えています。企業は社会的存在であり、社会の中で意味を持たなければ存続できないからです。当社としては2030年「ありたい姿」の実現に向けて、社会的価値を創出し続けていかねばなりません。

その具体像が、先ほど述べた「生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業」という目標です。「健康」は世界共通の最重要課題の1つですから、この目標に向かって努力を続けていきます。

中でも「大豆たん白」は重要な事業ですね。

当社は基幹事業の1つとして「大豆たん白」を持っています。大豆ほど大きな可能性を秘めた食物はありません。栄養価が高く、人間が体内で合成できない8種類の必須アミノ酸の必要量を含んでおり、栄養過多の人にも栄養が不足している人にも体に良いのです。さらに大豆は資源効率が高いのが大きな特色です。世界人口は現在70億ですが、2050年には90億になると予想されています。人口が増えると、農地の確保が難しくなる恐れがあります。

その場合、資源効率の高い大豆は注目されるはずで、この点からも大豆は食糧問題の解決に大きく貢献することができます。

大豆を普及させることは大きな社会的貢献になりますね。

大豆を使った食品を広めることは当社の使命と考えています。

大豆は昔から豆腐、納豆、醤油などに利用されてきました。近年になって豆乳が普及したものの、風味的にはもう一歩という状況が続いてきました。食べていただかねば使命を果たすことにはなりません。そこで着目したのが、当社が蓄積してきた分離技術です。この技術を使って大豆本来のおいしい風味を活かした素材を作るUSS製法を開発したことにより、豆乳クリームや低脂肪豆乳が誕生し、利用される分野が広がっています。また、世界の食料需要の増大に対応するためにアフリカで大豆を育てるプロジェクトにも参画しています。

大豆はGMO（遺伝子組み換え作物）問題が取り沙汰されています。

当社は一切使用していません。食品素材を提供する企業として、消費者が心配する原料を扱ったり、その原料を使った製品を提供したりするわけにはいきません。しかし、米国で作られる大豆の9割はGMO大豆です。とはいえ、世界的に食料が不足して、それを補えるのがGMO大豆という時代が来るかもしれませんので、その動向について研究は続けていきます。

持続可能な調達は企業存続に不可欠

食品中間素材メーカーとして、持続可能な調達も大きな課題です。

当社は油脂ではパーム油、ヤシ油など植物油脂を扱っています。
生産・流通の状況はそれぞれ異なり、状況変化は常に起こるので、的確に対応していかなければなりません。供給元を広げておくとともに、持続可能な管理ができている産地および商社と信頼関係を構築していくことが重要です。

環境経営について、今後の取り組みはどのように考えていますか？

当社の環境活動は2011年6月に策定した「不二グループ環境ビジョン2020」が基本になります（P19参照）。ここで示された目標には、ハードルが高くて難しいテーマも掲げられていますが、そのギャップを解消するには、新中期経営計画で示したように、過去からの延長線上で考えるのではなく、イノベーションを起こすことが重要です。「不二グループ環境ビジョン2020」は期限まで5～6年と迫っているため、イノベーションを起こすことで実現を目指します。

消費者目線を重視した技術経営を追求

技術経営はどのように展開していくのでしょうか。

お客様が当社を選んでいただく最大の理由は技術です。今後も当社が技術の会社であるという方向は揺るぎません。しかし、消費者目線は欠かせないと思います。実際買い物をされるお客様が何を求めているのかを理解しなければ、B to Bの営業活動で説得力のある提案ができないため、消費者(C)を意識した「B to B for C」志向を持たねばならないと社員に発信し続けています。

また当社の技術経営は、単なる研究部門の技術だけでなく、生産技術や営業による顧客企業へのソリューション提案も含めた技術となります。特に重要なことは常に差別化できる技術を開発すること、そして顧客の立場に立った技術を開発することです。

「ルネサンス不二 2016」では人づくりを強調していますね。

どのような目標も「人」なくしては達成できません。人は人によって育てられ、環境によって育てられます。その人のために何をしてあげられるかを考えることから人間関係が生まれます。下を思いやり、活性化を促すことが上司の第一の仕事です。

1960年に定めた旧経営基本方針には「不断の革新を断行する」、1980年に定めた経営基本方針には「創造の精神をもって常に革新に挑む」とうたっています。これは長年、大切にしてきた当社のDNAです。このDNAを今後も活かして挑戦し続ける人材を育成していきます。当社の社員は潜在的な可能性を秘めていますから、大いに期待しています。

サステナブル経営について抱負を聞かせてください。

前回の中期経営計画「Global & Quality 2013」の3大方針を継承し、必ず実行します。当社の事業そのものがサステナブルな要素が強いので、全社員がより認識を深めた取り組みを実行し、社会からより信頼される企業になっていかなければならないと考えています。

「ルネサンス不二 2016」

(2014～2016)

生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業を目指して 不二製油グループ新中期経営計画

「2030年 ありたい姿」「2020年 あるべき姿」を描き、新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」はその実現への活動計画と位置づけています。

不二製油グループが本来持っているものを復活・再生し、さらに進化させる意味を込めて「ルネサンス不二 2016」をスローガンとしました。

新中期経営計画スローガン

ルネサンス不二 2016

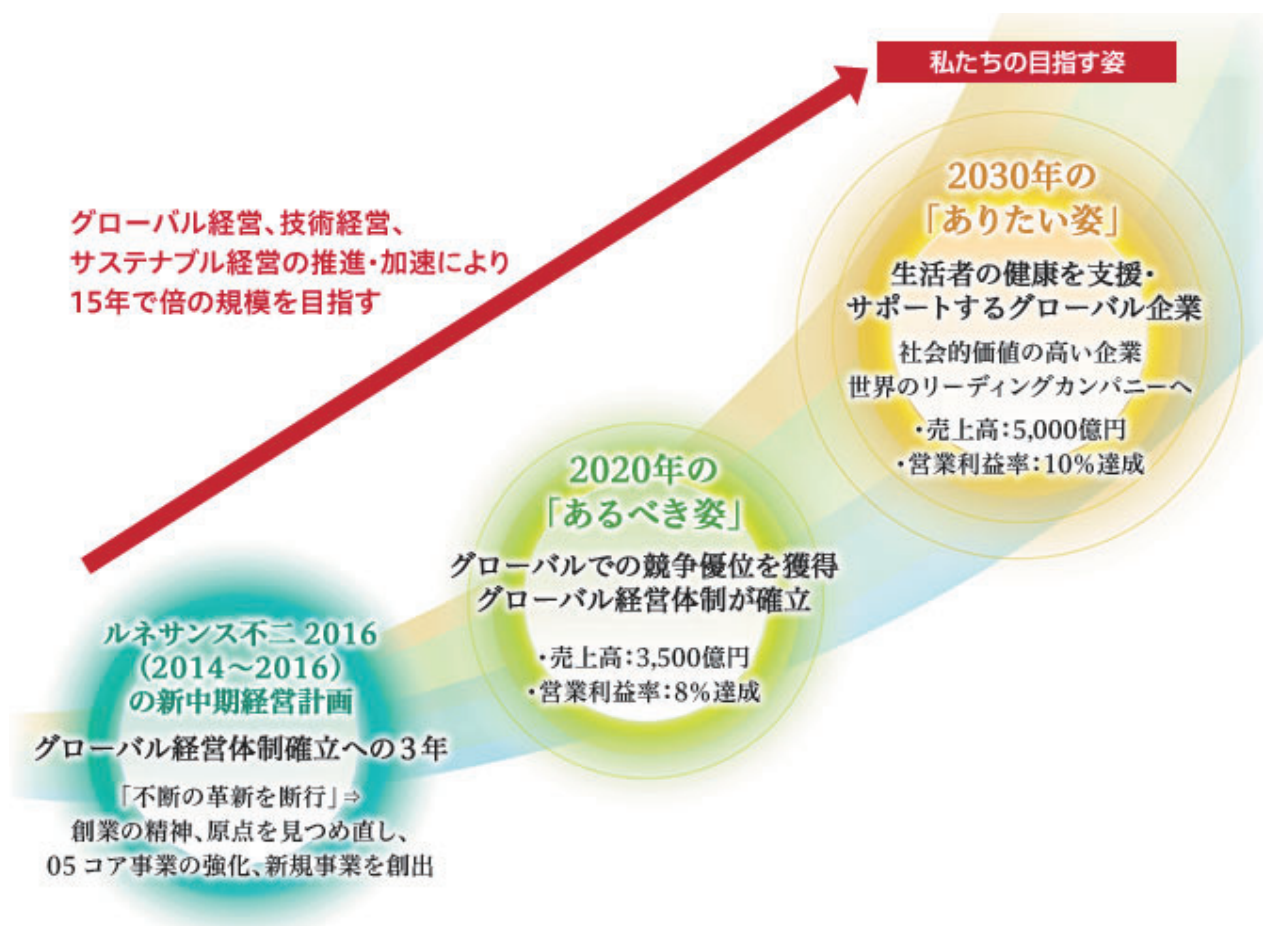
■創業の精神 ■開拓者精神 ■顧客第一主義 社会への貢献 ■不断の革新を断行する

「ルネサンス不二 2016」の概要

新中期経営計画では「事業環境の変化」、「ステークホルダーからの期待」、「経営基本姿勢」、「不二製油の志」などを前提となる考え方と踏まえ、2030年の「ありたい姿」、2020年の「あるべき姿」を描き、その実現への活動計画と位置づけています。

2030年の「ありたい姿」は、「生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業」となることを目標としました。これまで培ってきたコア技術により、世界No.1、エリアNo.1のコアビジネスを保有し、世界で存在感を示す企業として、売上高5,000億円、営業利益率10%の達成を目指します。

大きな環境変化への対応をより明確にするために、毎年見直し・修正を行い、向こう3カ年を常に検証、作成するローリング方式を採用することとしました。2014年から始まる新中期経営計画はグローバル経営体制確立への3年としています。



新中期経営計画の前提となる基本的な考え方

事業環境の変化

社会環境、経済環境、市場環境が大きく変化する中で、どの事業分野・エリアに経営資源を投入するのかに加え、企業の存在意義、あり方、企業姿勢が非常に重要であると認識しています。



ステークホルダーからの期待

経済的な成長を伴いつつ、社会的な価値（健康・栄養／おいしさ／食の信頼／環境）を創出するための、技術イノベーションが求められていると認識しています。



経営基本姿勢

私たちの技術とお客様が必要とされる何かをつなぐために、「ものづくり」と「ことづくり」を合わせて、お客様にその価値をお伝えするよう「価値づくり」を行い、常にお客様の立場で考えるB to B for C、つまり、顧客企業様の先の消費者を見据えた取り組みを推進していきます。そしてそれらを支える「人材」を育成していきます。

「ものづくり」+「ことづくり」=「価値づくり」

B to B for C (顧客企業様の先の消費者を見据えた取引)

「人づくり」

不二製油の志

変わらぬ使命

- 顧客への貢献
- 安全・安心・品質
- 環境への配慮

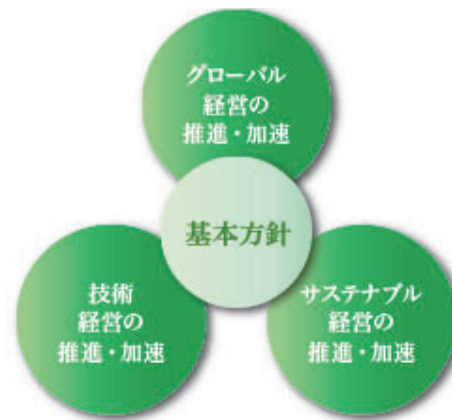
無限の可能性への挑戦

- 技術革新
- コア事業で世界へ
- 活き活きと働く

新中期経営計画の基本方針

グローバル経営体制確立への3年

前中期経営計画の基本方針を継続、加速させ、
具体的な施策をより推進します。



グローバル経営の推進・加速

日本

基幹市場として収益の維持・向上を図ります。特に成長の
期待される中食市場への開拓を推進します。

海外

成長国・成長市場での事業展開を加速、M&A・アライア
ンスを積極的に活用します。

グローバル経営体制の確立

グループ経営の推進、グループシナジーの創出

エリア管理の強化と権限委譲

エリア統括会社、エリア代表会社への権限委譲とスピード経営
の実現

グローバル人材の育成

グローバルに活躍できる人材の創出

技術経営の推進・加速

イノベーションを実現し、事業の競争優位を創出します。

コア技術の強化・徹底

分別・分離技術等のコア技術の強化
コスト競争力ある生産技術確立

知財戦略の強化

特許出願件数のトップクラス維持
ライセンスビジネスの展開

新規事業の創出

USS事業の確立、グローバル化
新素材の事業化推進

研究部門の活性化

国内外での研究所開設、アジア研究開発センターの新設
オープンイノベーションの強化／研究工程管理の強化
研究員の抜擢、ローテーション推進／働き方の変革

サステナブル経営の推進・加速

ステークホルダーの期待に応えるため、社会の課題解決に貢献します。

社会的価値の創出

健康・栄養、枯渇する食資源に配慮した製品開発

環境

不二グループ環境ビジョン2020の推進、省エネ、廃棄物削減

サステナブル調達

パーム、カカオの持続可能な調達推進

人づくり

人材開発、ダイバーシティの推進、活き活きとした企業風土の
醸成

基本戦略

成長戦略、収益構造改革、経営基盤強化の3つが「ルネサンス不二2016」の基本戦略です。

成長戦略

マーケティング力の強化と、市場の成長が見込まれ、当社グループに優位性がある事業分野に経営資源を集中的に投下します。自律成長に加え、M & A、アライアンスも積極的に活用します。

セグメント戦略

[油脂事業]

- **チョコレート用油脂の拡販**
新興国（中南米、ロシア）チョコレート市場／原料調達の多様化とグループ間連携強化／シア脂によるヨーロッパ、ロシア、南米の拡販
- **パーム競争力強化**
コスト競争力の強化／農園との関係強化／生産体制再構築
- **コア技術による市場対応**
米国ノントランス対応／健康・呈味油脂技術

[製菓・製パン素材事業]

- **国内**
中食・外食向け調理用素材拡販／コンビニエンスストア等広域流通市場を開拓／ワンストップ営業体制の確立／ギフト市場ほか新チャネル市場攻略
- **海外**
拡大する新興国（中国、マレーシア、タイ、インド）およびアメリカ市場で製菓・製パン素材（マーガリン、チョコレート、クリーム）の拡販

[大豆たん白事業]

- **戦略製品の拡販**
USS製品（豆乳クリーム、低脂肪豆乳）のマーケティングを強化し、国内外で事業確立／重点製品拡販による事業拡大（粒状大豆たん白、冷凍豆腐）
- **事業構造改革**
海外：中国大豆サプライチェーン再構築
国内：大豆加工食品事業再構築／アライアンス戦略

海外戦略

アジアを中心とする新興国で製菓・製パン市場に対し、積極的な事業投資を行い、製菓・製パン素材（マーガリン、チョコレート、クリームなど）の拡販を図ります。

チョコレート用油脂において、新興国でのチョコレート市場の成長を確実に取り込み、更に中南米・ロシアへの展開を加速します。

中国にて、大豆事業サプライチェーンの再構築を図ります。

収益構造改革

業務プロセス改革と事業構造改革を強力に推進します。

- 全ての業務プロセスで徹底した無駄の排除、生産性、効率性の向上を図ります。
- 事業の選択と集中を徹底し、生産拠点の統廃合・再編と、サプライチェーンの再構築を行います。

経営基盤強化

組織戦略・人材開発・CSR戦略の推進を図ります。

- 真のグローバル企業を目指し、経営体制・経営基盤を強化します。
- CSR経営をグローバルで推進し、CSRの浸透を図ります。

財務戦略

営業キャッシュフロー

安定的な成長により新中期経営計画3年間で500億円規模以上を創出。

成長投資

設備投資：3年間で480億円規模の設備投資を計画（国内・海外それぞれ240億円）。M&A等の事業投資は設備投資とは別枠設定し、戦略的に判断。

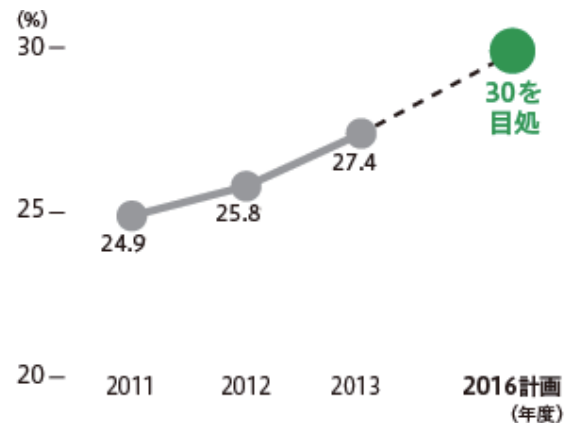
資金調達

D/Eレシオは50%以内を基準とするが、戦略投資の場合には50%超を許容。

株主還元

連結業績を勘案し、安定的かつ継続的な配当を基本とする。
配当性向は2016年30%を目途とする。

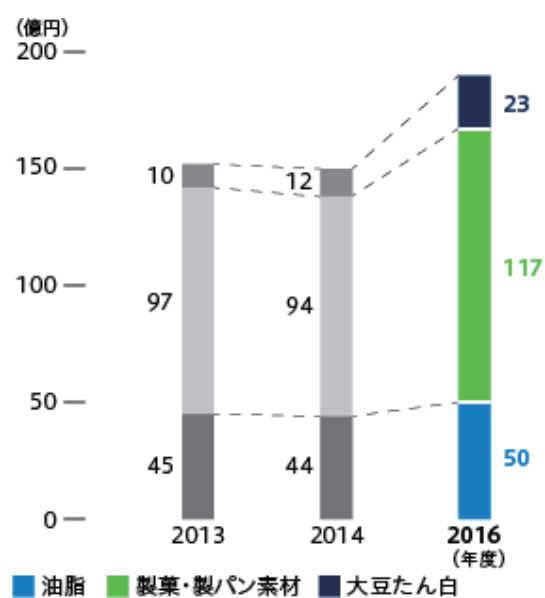
配当性向推移



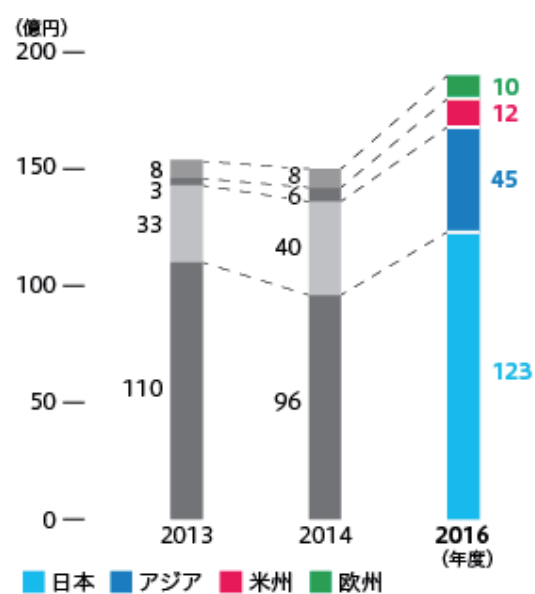
経営指標の目標値

	2013年度	2014年度	2016年度
売上高（億円）	2,530	2,827	3,000
営業利益（億円）	152	150	190
営業利益率（%）	6.0	5.3	6.3
海外利益比率（%）	29	36	35
ROE（%）	6.7	7.2	8.0
セグメント別営業利益（億円）			
油脂	45	44	50
製菓・製パン素材	97	94	117
大豆たん白	10	12	23
エリア別営業利益（億円）			
日本	110	96	123
アジア	33	40	45
米州	3	6	12
欧州	8	8	10

■ 連結セグメント別営業利益計画



■ 連結エリア別営業利益計画



持続可能な サステナブル経営の推進

新しい価値を創出し社会に貢献

社会環境が大きく変化中、不二製油グループが貢献していくべき社会課題を見据え、「ルネサンス不二 2016」においてサステナブル経営を推進していきます。

社会の課題

人口の増加とともに「食」の課題が深刻になる一方で、「健康・栄養」課題も浮き彫りになってきました。高齢化や女性の社会進出、人権や労働環境、さらには地球環境問題など、このような課題に真摯に取り組むことが重要と認識しています。

サステナブル経営を推進

社会課題を踏まえ、ステークホルダーの期待に応え続けるため、当社グループでは、以下5つの項目を重要事項として取り組んでいきます。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界的な高齢化の進展 ● 栄養不良・栄養過剰人口の増加 ● 食の安全・安心への不信 		健康・栄養 日本をはじめ世界各国で高齢化が進む一方、生活習慣病が先進国でも新興国でも大きな問題となっています。当社グループは独自の技術と製品で「健康・栄養」課題に取り組んでいます。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界人口の増加による食糧需給のひっ迫 ● 原料相場の上昇、高止まり 		食資源 人口減少傾向にある日本とは異様に、世界では人口増加に伴う食資源の枯渇・不足懸念は深刻な事態を招いています。食料・素材メーカーとして世界に貢献するための研究開発を進めています。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化の深刻化 ● 水不足、エネルギー不足の深刻化 ● エネルギーコストの上昇 		環境 当社グループは、世界的に取り組むべき環境保全活動とその目標を定めた長期ビジョン「不二グループ環境ビジョン2020」に基づき、グループ全体で環境保全活動を進めています。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界的な原料調達不安 ● パーム、カカオにおける環境および人権問題の顕在化 		サステナブル調達 当社グループ製品の主原料であるパーム、カカオの持続可能な調達を実現し、お客様に安心供給をすることは、素材メーカーとして重要な取り組みです。
	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバリゼーションに対応した人材の必要性 ● 高齢者の就業機会の増加 ● 女性の社会進出の拡大 		人づくり 生産者様での「ものづくり」「ことづくり」=「価値づくり」を支える人材の採用・育成・啓蒙を推進します。「ルネサンス不二 2016」においては、特にダイバーシティを推進し、人づくりをグローバルで取り組みます。

🔍 [クリックで拡大表示します。](#)

CSRマネジメント

不二製油グループは、CSRを、企業理念を具現化し、本業を通して社会の課題解決に貢献することと位置づけています。

「CSRは経営そのものである」という考え方のもと、事業活動を通して社会からの期待や要望に応え、新しい価値を提供することで、社会と不二製油グループ双方の持続的な発展を目指しています。

CSRの考え方

新中期経営計画の基本方針「サステナブル経営の推進・加速」に向けて取り組んでいます。具体的には、社会的価値の創出、地球環境、サステナブル調達、人づくりの4項目を軸に、ステークホルダーからの期待に応え、生活者の健康をサポートするグローバル企業を目指します。本年度は、部長クラスで編成する「CSR実行委員会」の見直しを行い、4項目の責任者と共にサステナブル経営の実現に寄与していきます。

サステナブル経営の推進イメージ

生活者の健康をサポートするグローバル企業へ



FUJI WAY

企業理念

「食」の創造を通して、
健康で豊かな生活に貢献します。

コーポレートメッセージ

二つとない、をつくる。不二製油

経営理念

□ 経営の前提

安全・品質・環境を最優先する。

□ 経営基本方針

顧客への貢献を果し不断の発展を図る

創造の精神をもって常に革新に挑む

自己啓発^{さか}を熾んにし人格の向上を目指す

※ コーポレート・ガバナンスについては「[コーポレート・ガバナンス](#)」を参照

CSRビジョン

不二製油グループのCSRビジョンは、企業理念『「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。』を実現することです。「人マネをしない」という創業の精神を胸に、食品素材メーカーとして価値ある製品・サービスを提供し、社会の皆様から信頼され、期待される「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

CSR活動方針

I. 「食の創造」に関する取り組み

1. 価値の創造

「企業理念」実現の柱として、油脂と大豆たん白を中心とした新たな食品素材の開発に取り組み、世界のお客様の期待に応えるものづくりを通じて、健康や美味しさなどの新しい価値を提供します。

2. 食の安全・安心・品質

お客様に安心と満足をお届けするために、徹底した安全性の確保と品質の向上に努めます。

3. 持続可能な調達

持続可能な食資源の研究開発を行うとともに、自然環境との調和と安定供給を実現するサプライチェーンも含めた持続可能な原材料調達に努めます。

II. 「人材・人権」に関する取り組み

1. 人権

グローバルに事業を展開する企業として、グループ内にとどまらず、サプライチェーンも含めた基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。

2. 人材

不二製油グループ発展の基盤は人材です。多様な価値観をもった従業員がイキイキと能力を発揮できる効率的で安全な職場環境を整備します。従業員一人ひとりの成長を支援し、企業理念の実現に貢献できる人材を育成します。

III. 「環境」に関する取り組み

環境経営を推進する企業グループとして、原料・水・エネルギーの効率的な利用、地球温暖化防止、廃棄物の削減、生物多様性に配慮した原料調達などに努め、事業活動と環境の調和を図ります。

IV. 「地域・社会」に関する取り組み

不二製油グループは、企業理念の「食」「健康」「豊かさ」に関する社会貢献活動をグローバルに展開していきます。また、良き企業市民として、地域社会とのコミュニケーションを図り、より良い社会作りに貢献します。

V. 「CSR基盤」に関する取り組み

1. 企業理念の浸透とグループCSRマネジメント

グループ全体に「FUJI WAY」の浸透を図るとともに、グローバルな視点でCSRマネジメントを推進できる体制を整備・運用し、更なる改善に努めます。

2. コンプライアンスとリスクマネジメント

透明性の高い健全な経営を実現し、信頼される企業であり続けるためにコンプライアンスを推進するとともに、持続可能な事業活動の推進のため、リスクマネジメントを強化します。

3. ステークホルダーとのコミュニケーション

事業に関わるすべてのステークホルダーと誠実な対話をおこない、その期待に応えることで、信頼関係を構築するとともに、得られた知見をCSR活動に活かします。

4. CSRサプライチェーンマネジメント

取引先との公正で公平な取引を徹底し、取引先との連携を深め、CSR調達を推進します。

CSRのグローバル展開

当社のグループ会社は国内7社、海外19社となり、事業拠点は中国、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなどグローバルに展開しています。各グループ会社は「CSRビジョン」や「サステナブル経営」などの考え方を共有し、各国の法令や文化を尊重するCSR活動を推進しています。

不二製油 主なグループ会社



グローバルCSRリーダーネットワークの構築

CSRを国内外グループ会社にも浸透させ、推進することを目的に、国内外グループ会社には「CSRリーダー」を設置し、グローバルCSRネットワークを構築しています。今年のレポートで取り上げたグループ会社の情報は、このネットワークを通じて集まったものです。今後は、サステナブル経営の浸透およびグループ会社間での情報交換など、当社グループを挙げてCSR推進に取り組めます。

グローバルCSRリーダーのコメント

会社の、そして社会の一員として、地球と社会に貢献する責任があると考えています。お客様はサステナブルな製品を求めており、私たちはサステナブルな調達を求められています。中でもトレーサビリティは製品のサステナビリティに不可欠で、調達先との連携が必要となり、フレイアバディ インドタマの仲間たちと共にビジネスを変えていこうという情熱も必要となります。ハートで取り組んでいきたいと思っています。



フレイアバディ インドタマ
コンプライアンス・
監査担当マネージャー
Natalia Kristiani

国連グローバル・コンパクトへの賛同

不二製油グループでは、2013年1月、国連グローバル・コンパクトに署名しました。当社グループは、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野10原則を実践していくことで、自社グループのみならず社会全体の持続可能性向上に貢献していきます。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人権

原則1：人権擁護の支持と尊重

原則2：人権侵害への非加担

労働

原則3：組合結成と団体交渉権の実効化

原則4：強制労働の排除

原則5：児童労働の実効的な排除

原則6：雇用と職業の差別撤廃

環境

原則7：環境問題の予防的アプローチ

原則8：環境に対する責任のイニシアティブ

原則9：環境にやさしい技術の開発と普及

腐敗防止

原則10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み



Sedexデータベースの活用

不二製油グループでは、国連GCの10原則を実践するにあたり、グループ各社のSedex（Supplier Ethical Data Exchange）※会員登録を進めています。

2014年5月現在で、国内3拠点、海外4社が登録を完了しました。今後も顧客の要請に応じて取得を進めていきます。

※ サプライチェーン上でのCSRの実践を支援する国際的な非営利会員組織。会員企業は、「労働基準」「健康と安全」「環境」「事業慣行」の4テーマについて自社のサプライチェーンの状況を調査し、情報を他の会員と共有する

認証取得状況など

<国内グループ> ○：取得済み △：進行中、計画中

拠点名		ISO9001	ISO14001	備考
不二製油				
対象全拠点で取得		○	—	
個別拠点で取得	阪南事業所	—	○	
	神戸工場	—	○	
	堺工場	—	○	
	関東工場	—	○	
	千葉工場	○	○	
	石川工場	○	○	
	たん白食品つくば工場	○	○	
	りんくう工場	—	○	
	つくば研究開発センター	—	○	
国内グループ会社				
フジ フレッシュフーズ（株）		○	—	
トーラク（株）		○	—	
オーム乳業（株）		○	○	
（株）エフアンドエフ		○	—	

<海外グループ> ※1 ○：取得済み △：進行中、計画中

拠点名	ISO 9001	ISO 14001	ISO 22000	FSSC 22000※2	HACCP 関連認証	AIB※3	OHSAS 18001	ISO 17025	Kosher (コーシャ) 認証※4	Halal (ハラール) 認証※5	RSPO SCCS※6	Sedex	備考
フジ ベジタブル オイル (アメリカ)	-	-	-	△ SQF	△	○	-	-	○	○	○	-	
フジオイル ヨーロッパ (ベルギー)	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	BIO EU、DIO NPO、Fair Trade
フジオイル (シンガポール)	○	○	-	○	○	-	-	-	○	○	○	○	
ウッドランド サニーフーズ (シンガポール)	-	○	○	△	○	-	○	-	-	○	-	-	FSSC: 2015年取得計画
バルマジュ エディブル オイル (マレーシア)	○	○	-	○	-	-	-	-	○	○	○	-	
フレイアパディ インドタマ (インドネシア)	○	○	○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
フジオイル (タイランド)	-	△	○	○	○	-	-	-	○	○	△	○	
ムシム マス-フジ	○	-	○	-	-	-	△	-	○	○	○	-	
不二製油 (張家港)	-	-	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	
吉林不二蛋白	○	○	○	-	-	-	△	-	○	○	-	-	
天津不二蛋白	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	ISO14001: 失効から回復
山東龍藤不二食品有限公司	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	ISO22000: HACCPから移行
上海旭洋緑色食品	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
正義股份有限公司	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	GMP: 一部取り消し

※1 詳しくは「国際的品質マネジメント認証の活用」、「GFSI承認規格」を参照

※2 FSSC22000: ISO22000をベースに要求事項を追加した食品安全衛生マネジメントシステムの国際規格

※3 AIB: 製パン業界・製粉業界向けに開発された食品安全衛生マネジメントシステム

※4 Kosher認証: ユダヤ教の食事規定に則った原材料や工程で食品を製造していることを証明する国際認証

※5 Halal認証: イスラム教の食事規定に則った原材料や工程で食品を製造していることを証明する国際認証

※6 RSPO SCCR: RSPOによる認証油を使用していることを証明する認証。詳しくは「持続可能な調達のために」を参照

サステナブル経営の推進

社会的価値の創出ー健康・栄養ー

人口増加や高齢化、栄養不足と栄養過剰など、「食」に求められるニーズは、いま世界的に大きく変化しています。その中で「食」の素材メーカーとしての不二製油グループは、さまざまな側面から新しい価値を創出して社会に貢献しています。

市場環境は大きく変化しており、女性の社会進出、高齢化にともない拡大する「中食市場」においしく、健康で、環境に配慮した調理用素材を広く提供します。不二製油の製品によってお客様の課題解決に貢献する提案営業を行うことで、わたしたちはお客様満足No.1を目指しています。

取締役執行役員 営業本部長
池田 正史



高齢者への支援

社会の課題(日本)

2030年の日本は生活環境やライフスタイルが大きく変化

超高齢化社会(日本)

- 人口の約1/3が高齢者
- 団塊の世代が75歳以上になり5人に1人が後期高齢者
- 14歳以下の子どもが現在の2/3に減少

社会保障費の増大

- 健康に対する意識が「治療」から「予防」に
- 要介護比率の低下が「課題」
- 医療・介護費:2008年:41兆円
2025年:90兆円

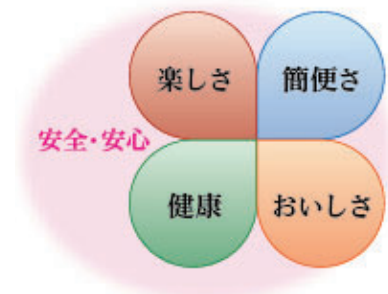
「高齢期の食事に関するセミナー」を約100社の参加を得て開催

高齢者は総人口の25% に当たる約3,000万人に上ります。その高齢期の健康・栄養について考えることは、社会的に大きな価値があります。そこで、2013年11月、「高齢期の食事に関するセミナー」を開催、約100社の食品関連企業に参加いただきました。

セミナーを開催するにあたり、当社は5つのキーワードを提唱し（下図参照）、展示・試食ブースを「惣菜系」「調味系」「チルドデザートおよびパン」「流通菓子」「サプリメント」に分けて提案しました。各ブースでは、高齢者の方が、必要な栄養成分を効果的に摂っていただける製品群を紹介しました。



健康・栄養5つのキーワード



用途に応じてブースをつくり、計22品目の試食品と、3品目の試飲品を展示

TOPICS

アクティブシニア「食と栄養」研究会の一員として高齢者の健康維持に貢献

超高齢社会を迎える中で、筋肉や骨、関節が弱まることで日常生活に大きな支障をきたし、最悪の場合、要介護や寝たきりの状態となる高齢者が年々増えています。アクティブシニア「食と栄養」研究会は、高齢者の「虚弱」、「ロコモティブシンドローム」、「サルコペニア」といった問題に対して、食と栄養を切り口に、予防や対策につながる情報を提供することを目的に2013年3月に設立されました。当社は協賛会員として、呈味増強油脂、豆乳クリームや低脂肪豆乳、大豆ペプチドなどの栄養健康素材の情報を積極的に発信し、高齢者の方々が少しでも健やかで豊かな生活を過ごせるように貢献していきます。



📍 新型栄養失調※の解消に向け「高たん白・高油分な食」を提案

高齢期を健康に過ごせる食生活への関心は高まっており、社会の要請に先駆的に応えていくことは、油脂と大豆たん白のアプリケーション開発に豊富な経験と知見を持つ当社にとって、最も重要な使命と考えます。このセミナーでターゲットの中心に据えたのは「新型栄養失調」になっているアクティブなシニア層です。老化の進行を遅らせ、毎日の生活を楽しみながら活力ある人生を送っていただくための「高たん白・高油分(高エネルギー)な食」を提案しました。今後はさらに、消費者の意識を変えていく活動にも取り組み、社会に向け発信をしていきます。

健康意識の高い人ほど、メタボへの忌避意識が残り、特に高齢者には「粗食は体に良い」という考えがまだ根強く残っています。このため当社ではアクティブシニア「食と栄養」研究会の協賛会員になり、社会に向け発信も行っています。

※ 人間総合科学大学の熊谷修先生のグループが提唱する考え。老化に基づく栄養状態の低下を指し、血清アルブミンの数値を簡便な指標とする。

📍 「減塩」への貢献および今後の展開

食塩は、食品への呈味付与だけでなく、細胞の浸透圧調節、消化・吸収、神経のシグナル伝達など、体の維持に重要な役割を果たしていますが、摂取過剰になると、血管の収縮で血圧が上昇し、動脈硬化や脳血管障害などを誘発する原因となります。

食塩の摂取目標量は男性で8.0g / 日未満、女性で7.0g / 日未満と設定されていますが（厚生労働省策定『日本人の食事摂取基準（2015年版）』より）、平均摂取量は、男性が11.3g / 日、女性が9.6g / 日となっており、目標値を大きく上回っています（厚生労働省『平成24年国民健康・栄養調査結果の概要』より）。

これは、減塩食品＝味が薄い、おいしくないというネガティブなイメージが強く、なかなか減塩食品が普及しにくいことに起因しています。当社では少ない塩分や調味料でも塩味、辛味、酸味等が強く感じられる『呈味増強油脂』を開発。無理なく・おいしく減塩できる食品素材として、現在は国内に加え海外のお客様にも提供し、高い評価を得ています。

今後は「抗酸化」を切り口に、酸化安定性が向上した機能性油脂製品の開発を行い、消費者の生活の質向上に食を通して貢献できるよう取り組みます。



呈味増強油脂を使用した麻婆豆腐

働く女性の支援

ママ目線の新商品、新事業を創出

女性の社会進出が活発化する日本において、ワーキングマザー市場は今後さらに成長し続けると予測されます。そうした中で、当社はこの新市場開拓を目的に、2014年1月よりワーキングマザーのチームを結成し活動しています。

「日々の食事で悩むワーキングマザーが喜び、料理を通じて子どもたちとのコミュニケーションも深まる、栄養満点食生活提案」をミッションに、ママ目線の新商品、新事業の創出に向け取り組んでいます。



商品開発の意見を出し合うワーキングマザーチーム

低トランス油脂の普及促進

各国で需要の高まり

「飽和脂肪酸」や「トランス脂肪酸」は、油脂の硬度や融点を調整し、機能性を付与するために使用されてきました。しかし近年、米国で米食品医薬局（FDA）が食品へのトランス脂肪酸の使用規制を強めるなど、世界中でお客様のニーズが変化してきました。

当社グループではこのようなお客様のニーズに対応できるよう、低飽和脂肪酸・低トランス脂肪酸の製品を開発・販売しています。

特に中国のパン・菓子などの食品には、トランス脂肪酸の含有量表示のものが少なくありません。これは消費者が低トランス脂肪酸・ノントランス脂肪酸を健康面から重視している傾向が強いためです。

不二製油（張家港）有限公司は、お客様の要望にお応えするため、マーガリン・カスタードなどに低トランス脂肪酸の製品を取り揃えています。



中国で発売している低トランス脂肪酸対応品

おいしさにこだわったカロリーオフの製品開発

不二製油は、油脂からそれを用いた食品素材までを一貫して製造している強みを活かして、2007年から「低油分製品」の開発を進めています。ひと口に低脂肪と言っても、単純に脂肪分の含有量を減らすだけでは、素材の機能性やおいしさを損なう可能性があります。そのため不二製油では、これを防ぐための加工技術の確立に取り組んできました。

現在はホイップクリームやチョコレートなど、製菓素材分野で低油分製品を販売しています。今後は健康を訴求した素材など、他の分野でも製品を展開していく予定です。



ホイップクリーム

アレルギーへの対応

フジオイル ヨーロッパの取り組み

フジオイル ヨーロッパの油脂生産工場は、使用するレシチンを大豆由来からヒマワリ由来に切り替えてアレルギーフリーの工場としています。

ココアフィリング・コンパウンド生産工場(FFC)では大豆レシチンを使用した製品が主流ですが、最近はお客様のご要望でヒマワリレシチンの使用が増えていきます。

なお、2014年4月から日本でもヒマワリレシチンの使用が認められました。

またFFCでは乳糖の含量を1,000ppm以下に抑えた製品を生産。乳糖の混入を防ぐための方法を確立し、厳密な生産管理を行っています。



アレルギーフリーの工場

大豆の高付加価値商品で社会に貢献

社会の課題

人口増に伴う食肉需給のひっ迫や生活習慣病などが課題

水資源利用効率が高い大豆

- 北緯50度の寒冷地から赤道に近い熱帯まで世界の広い範囲で栽培が可能
なため、食肉資源の不足を補える
- 生産時の水使用量は牛肉の10%※1
- エネルギー効率は415%※2

大豆たん白の健康機能

- 悪玉コレステロール減少、善玉コレステロール増加
- 血中中性脂肪の減少

※1 出典: 東京大学生産技術研究所 沖研究室

※2 出典: Earth Interactions Vol.10 (2006)

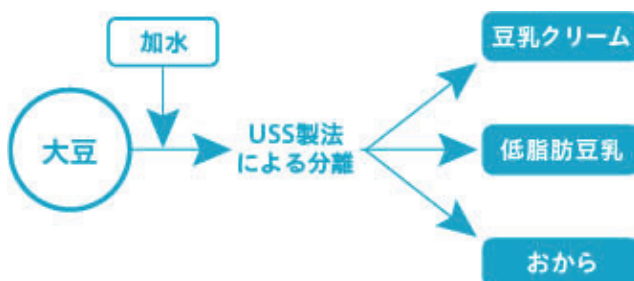
大豆本来のおいしさを引き出すUSS製法を開発

2012年に開発したUSS（Ultra Soy Separation）製法は、大豆本来のおいしさを引き出しているとして、各界から評価を得ています。

USS製法は生乳の遠心分離を応用した製法で、加水した大豆から、豆乳のヘルシーな貯蔵たん白画分（低脂肪豆乳）と、大豆のうま味が凝縮されたリポたん白画分（豆乳クリーム）を分離し、2つの新素材の製品化を可能にした製法です。

この2つの製法によって生まれた製品「プレミアム豆乳」は、高齢者の健康、生活習慣病対策としての「食」のみならず、あらゆる世代の健康的な食生活に貢献するため、当社はさまざまな普及促進活動を展開しています。

プレミアム豆乳を生み出すUSS製法のしくみ



左から、USS製法を用いて作った豆乳クリーム、豆乳加工食品、低脂肪豆乳

期間限定「まめプラスカフェ」を運営

活動の一環としてまず、消費者に体験していただくイベント「まめプラスカフェ」を実施しました。このイベントは、東京・青山の人気カフェ「Royal Garden Cafe」とのコラボレーションによって実現したもので、2014年4月18日から約3週間の期間限定で運営しました。

「プレミアム豆乳」や肉・ツナ用の食感を持つ大豆たん白素材「大豆ミート」を食材として使用したメニューを通して、消費者の方々が大豆のおいしさと幅の広がりを体験できる場として企画したものです。延べ約31,000人の来店者があり約12,900食のまめプラスメニューが提供され、お客様にも大豆ルネサンスの世界観を体感していただくことができました。この“ことづくり”の試みは、雑誌やメディアでも報道され、大豆の新しい価値の普及促進につながるイベントとなりました。



アボカドと大豆ミートのツナ風サンド



ごま豆乳だれの豚しゃぶサラダ

料理界から一般生活者へ 和食文化とともに海外へ

USS製法によって誕生した豆乳クリームと低脂肪豆乳。豆乳クリームを業務用製品『濃久里夢（こくりーむ）』、低脂肪豆乳を業務用製品『美味投入（びみとうにゅう）』として発売して以来、和洋中のジャンルを問わず、料理の世界で活用が広がり、外食の分野で、新しい価値を創出しています。

京都の老舗「菊乃井」三代目主人の村田吉弘氏は、和食のユネスコ無形文化世界遺産登録の実現に尽力した方で、村田氏が理事長を勤めるNPO法人日本料理アカデミーは、2014年2月、パリで世界遺産登録の祝賀晩餐会に参加。豆乳クリームを使ったデザートが好評を博すなど、和食のグローバル化とともに、大豆を使った食品が世界に発信されています。



和食文化を広める「菊乃井」三代目主人の村田氏

大学の協力を得て「プレミアム豆乳」の新メニューコンテストを開催

当社は若い世代とのコラボレーションを図っています。「プレミアム豆乳」の新しい価値を発掘するため、2013年11～12月、畿央大学・九州女子大学・東京家政大学の3大学でそれぞれ「プレミアム豆乳」メニューコンテストを開催しました。

学生の皆様の豊かな想像力で、柔らかくて安全に食べられるおいしい介護食や、七大アレルゲン不使用のデザートなど、すばらしいレシピが多数誕生しました。今後も産学連携での取り組みを継続し、「プレミアム豆乳」「大豆ミート」を活用した具体的な製品を創り、「食」の分野での社会貢献につなげていきます。



畿央大学のコンテストで発表された新メニューの一例

「プレミアム豆乳」をきっかけに「まめプラス推進委員会」を発足

「プレミアム豆乳」を食材に活かすことによって、食生活をより豊かにし、おいしく、ヘルシーなライフスタイル「まめをプラスした生活」を送っていただく活動母体として、「まめプラス推進委員会」を立ち上げました。

この活動に共感いただいた企業・団体※にご参画いただき、「プレミアム豆乳」などを使用したおいしく、ヘルシーな商品を、消費者の方々にお届けしています。ホームページでは、「まめ」に関する基礎知識や健康価値、「プレミアム豆乳」に関する最新ニュースを発信し、健康・栄養・食資源課題に貢献するとともに、新市場創造の起点となっています。

※ 菊乃井、Wakiya、相模屋食料株式会社、オークスハート株式会社、株式会社エルビー、株式会社 Mizkan（ミツカン）、カネテツデリカフーズ株式会社、伊藤忠商事株式会社、畿央大学、東京家政大学、九州女子大学（2014年4月現在、敬称略）

「酵素エステル交換油脂」の開発

不二製油は、油脂の「酵素エステル交換技術」を世に先駆けて実用化しました。

一般に油脂とは「グリセリン」と「脂肪酸」がエステル結合した物質をいいますが、エステル交換とは、触媒を用いてエステル結合している脂肪酸の種類・結合位置を交換する技術です。これにより、機能性の高い製品をつくることが可能になります。

「酵素エステル交換技術」は、触媒として酵素を用いてこの反応を起こす技術で、従来の方法よりも環境に優しい技術として注目されています。

不二製油では、本技術を、マーガリン、チョコレート、クリームなどの風味改善ならびにトランス脂肪酸の低減に活用しています。

今後はさらに、製品のさらなる製品品質の向上に向けて、積極的な活用を進めていく予定です。

サステナブル経営の推進

社会的価値の創出－食資源－

世界の人口増にともなって、食資源の枯渇は重要な課題です。不二製油グループは「食」の課題解決への一助として、これまでに培ってきた技術を活かした製品の開発・供給に努めています。

高齢化社会を迎える中、研究開発本部では高齢者でも元気な生活を送っていただけるよう「食と健康」を切り口にし、ロコモティブシンドロームや認知症などの予防につながる素材開発を行っております。また、現在、課題である食資源の枯渇については、国内外の研究機関との共同研究により、再生可能な原料に関する研究を進めており、今後の食の課題に貢献してまいります。

取締役常務執行役員 研究開発本部長

前田 裕一



水産庁が委託する「ウナギ種苗大量生産システムの実証化事業」に参加

ウナギの養殖は大正時代に技術開発が行われ、以後養殖業者は天然シラスウナギから成鰻までの人工飼育を行っており、天然シラスウナギは、日本沿岸や河口付近および河川で採捕されます。捕獲量は、1960年には100t以上でしたが、2011年には10t程度まで大幅に減少しました。今年は昨年より捕獲量が増加しましたが、稚魚価格の乱高下が養鰻業を圧迫しています。

最近では国産養殖ウナギを利用した蒲焼きも食べる機会が減ってきており、ウナギの食文化を維持していくため、ウナギ資源の持続的な利用確保が喫緊の課題となっています。当社はこれまで大豆ペプチドを餌料原料として水産総合研究センターに提供し、2003年に、ふ化からシラスウナギまでの人工飼育に成功、2010年世界で初めてのウナギ完全養殖成功に貢献してきました。

2014年度からは、一般社団法人マリノフォーラム21が主導する水産庁の委託事業に、ウナギ種苗の大量生産システムの構築を目指し、独立行政法人水産総合研究センターはじめ企業等と協同で参画しています。



シラスウナギの人工飼育

エビの食感を大豆たん白で実現

近年エビの養殖基地である東南アジアでエビの伝染病が発生し、生産量が激減したことにより価格が高騰しています。お客様よりエビの代替となる素材はないかという要望が寄せられ検討を開始しました。エビの食感や色調に近づけることができるよう試行錯誤した結果、当社がもつ大豆たん白と色素等を組み合わせる技術によって、エビ代替素材が完成しました。今後も製品を通して、エビ資源の安定利用をサポートしたいと考えています。



エビ様食感の粒状大豆たん白

賞味期限延長による食の廃棄ロスへの取り組み

食品廃棄物の削減は食品メーカーの重要な課題として取り組んでいます。お客様の販売動向に合わせた生産を行います、生販バランスを取ることも非常に重要です。過剰在庫による賞味期限切れを発生させないようにしなくてはなりません。特に賞味期限が短い製品のバランス管理には注意が必要です。

当社は、賞味期限が適切に設定されているかを再検討し、一部の製品で賞味期限延長を実施しました。今後も賞味期限延長のための取り組みを継続していきます。

フジオイル ヨーロッパでは廃棄ロスを大幅に削減

食の廃棄ロスの削減はヨーロッパにおいても重要な課題です。EUおよび各国レベルにおいてさまざまな取り組みが行われており、食品の賞味期限、規格に関する新法令が制定される可能性もあります。

このような背景を踏まえ、フジオイルヨーロッパは食の廃棄ロス削減を重要な課題と認識して積極的に取り組んでいます。

油脂生産工場では2013年度、製品ロス率は0.6%を達成しました。ローリー出荷の際に発生する製品ロスを集めてグリーンエネルギーの生産に活用しています。カカオフィリング・コンパウンド生産工場の2013年度製品ロス率は1.1%で、製品バイプロとして飼料用に使用されています。

今後も廃棄ロス削減に向けた取り組みを推進していきます。



フジオイル ヨーロッパの油脂生産工場

地域食品・醸造残さからの高品質・高機能油脂生産に向けた研究

農林水産省の「平成25年度農林水産業・食品産業科学研究推進事業 シーズ創出ステージ」研究課題として、新潟薬科大学応用生命科学部等の5機関と共同し2013年より3年間の研究プロジェクトを開始しました。食品・醸造業等の地域活性化のために、未利用の地域食品・醸造残さを原料に、高品質・高機能油脂生産に向けた研究を行い、日本の地域立脚型産業を目指します。

プロジェクトでは油脂生産に適した2種類の油脂酵母で高効率の油脂生産技術を確認させ、当社は酵母から産生される油脂の回収、精製プロセスの開発と、食品用途での品質・価値の評価を行います。

地域食品・醸造残さを利用することで、農産物の付加価値増大、地域ブランド化、高品質油脂増産による経済効果が期待できます。また、日本ブランドの食用油脂あるいはバイオマス活用モデルとして、グローバルな展開が期待されています。

地域食品・醸造残さからの高品質・高機能油脂生産に向けた研究



サステナブル経営の推進

社会的価値の創出－顧客満足の実践－

基本的な考え方

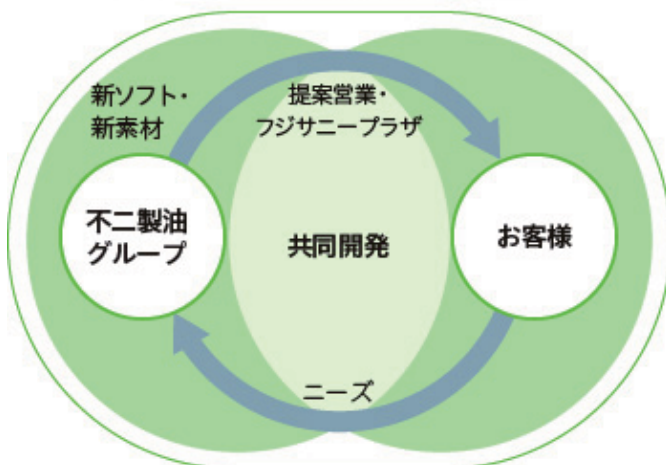
不二製油では、お客様対応における満足度の向上に取り組んでいます。お客様のご意見を収集し、企業活動に反映する仕組みを構築するとともに、お客様の満足度向上に向けて社員自らが考え、行動する風土づくりに取り組んでいます。

提案営業による実践

顧客満足を実現する取り組みの1つとして、当社は、日々の販売活動の中でお客様と課題を共有し解決する提案営業に取り組んでいます。油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白など幅広い分野で、新製品開発やメニュー開発をお客様と共同で実施し、トータルソリューションの実現を目指しています。その中核を担うコミュニケーションの場として日本・中国およびアジア各国に開発拠点「フジサニープラザ」を設け、それぞれのお客様の課題解決に努めています。

提案営業などに基づく製品開発

お客様とのコミュニケーション



フジサニープラザ



サステナブル経営の推進

人づくり

不二製油グループが「ありたい姿」を達成するには人材育成が最重要課題と認識しており、あらゆる側面で挑戦する従業員を育成するため、教育の徹底、積極的な登用とともに、ダイバーシティへの対応、グローバル人材の育成などに努めています。

挑戦し続ける人材を育成していきます

持続可能な経営に不可欠なのは「人づくり」です。今後ますます世界市場の変化が加速する中、その変化に対して挑戦し続ける人材育成がより一層重要になっています。中でも人材育成において鍵を握るのは、課長やグループリーダーなどのミドルマネジメント層です。自ら考え、自ら挑戦する人づくり、およびイキイキとした集団づくりが最大の課題です。挑戦して失敗しても結果は問いません。常に革新に挑み続ける人材を育成し、持続可能な企業集団を目指します。

取締役常務執行役員 人事総務本部長
小林 誠



人材理念

基本的な考え方

不二製油では、人材は会社を支える財産であるという考えのもと、「人材に関する方針」「人権に関する方針」を定めています。その方針に従って意欲ある人材が、国内はもちろん海外においても活躍できるよう、教育と環境整備の両面から支援することを約束しています。一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりに取り組むことで、製品品質やサービスの向上、ひいては会社の発展につなげ、社会から信頼される不二製油グループであり続けることを目指します。

■ 人材理念

人材に関する方針

1. 意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
2. グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
3. 公平・公正な人事制度(評価/処遇/育成)を構築・運営します。
4. 教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
5. 多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

人権に関する方針

1. グローバル企業として、基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。
2. 国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別は行いません。
3. 児童労働・強制労働・不当な低賃金労働の防止に取り組みます。
4. 雇用における機会均等を推進します。

企業風土委員会の設置

事業のグローバル展開の加速にともない、多様な従業員が活躍でき、企業競争力の向上に資するような風土づくりが求められています。不二製油では社長を委員長とする「企業風土委員会」を設け、明るく元気な「人づくり」を目指す活動、社員の人格を鍛える活動、企業変革を推進する活動に取り組んでいます。また、ガバナンス面では企業風土の醸成および向上を通じた内部統制における統制環境の基盤づくりに寄与します。

QR活動の実施

活動の考え方

不二製油では、1995年から全員参加型の社内活動である「QR（Quick Response）活動」を推進しています。

本活動の目的は、「お客様に選ばれ続ける会社となること（お客様満足度向上）」と「社内の連携と連帯感を強め、社員が"やりがいと成長"を実感できる会社をつくっていくこと（社員満足度向上）」の2つです。これら2つは互いに作用し合い相乗効果が生まれると考えています。こうした目的を実現するためのさまざまな活動を実践していくことで、企業価値の向上に努めています。

QR5原則

- 1.心をこめて挨拶を。
- 2.余裕を持って時間厳守。
- 3.電話は素早く丁寧に。
- 4.メールマナーを守ろう。
- 5.皆で考えようクレーム対応。

QR活動の構造

お客様満足度の向上

- <主な活動>
- お客様の声の収集・社内共有とそれに基づく改善活動
 - 「QR5原則」の徹底に向けた教育・啓発

不二製油の企業イメージが
向上し、社員の
モチベーションが改善

社員のモチベーションが
向上し、よりよい製品・
サービスの開発が加速

社員満足度の向上

- <主な活動>
- 仕事の成果をアピール（QR展示、製品勉強会など）
 - 活動成果の共有化（QR活動HP、かわら版など）
 - 経営者と従業員の対話機会の設置

2013年度の主な活動内容

2013年度、QR事務局では、「スピードの質を上げる」という方針を立てて活動を実施しました。2014年度は、引き続きスピードの質を上げるための施策を中心に活動を進めるとともに、国内外のグループ会社にも活動を展開する予定です。さらに、FAN※など、他の全社活動と連携した活動も検討していきます。

※ FANについては「『不二アクティブネットワーク（FAN）』」の定着・推進を参照

社長による決算勉強会の実施

経営者と社員とが、会社について率直に意見を交わす機会を設けたいとの考えから、社長が社員に会社の経営状況や今後の方針を説明する「決算勉強会」を開催しました。

勉強会は、11月の中間決算発表後に主要事業所で実施。テレビ中継による聴講者も含めて延べ482名が参加しました。社長による説明のあとには質疑応答の時間を設け、直接社長に質問を述べられるようにしました。終了後のアンケートでは、「会社の経営状況や今後の方針について理解が深まった」、「定期的に続けてほしい」といった感想がありました。



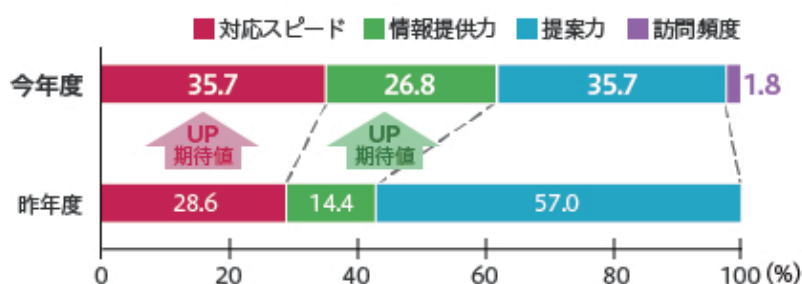
阪南研究開発センターでの決算勉強会

お客様アンケートの実施

2014年1月にお客様アンケートを実施しました。このアンケートは、不二製油のお客様対応、企業イメージなどをお客様から評価していただくものです。

客観化された評価をもとに、今後の改善活動のポイントを絞り込んでいきます。

不二製油に対して最も期待すること



アンケートのフリーアンサーから

- ・ 取扱い原料が多い分、規格書などの対応を最優先で求めます。
- ・ 技術力を活かした営業活動の継続を希望。
- ・ いざという時の対応力は他社と比較して早い。
- ・ 提案力とは、提案内容+実現スピード。

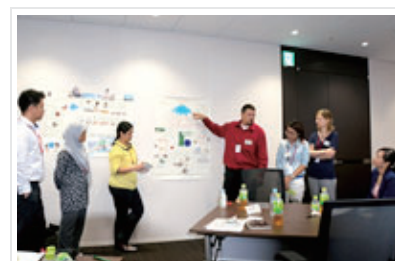
不二製油に対するお客様の期待が、「提案力」から「対応スピード」「情報提供力」にシフト。昨年度の調査と比較すると、原料市況や消費動向・トレンドといった市場情報の提供、問題発生時の情報開示や対策提案といった対応力と対応スピードに対する期待が高くなってきています。

「クイックレスポンス活動」サイトによる情報共有

QR活動に関する情報共有をスピーディにするため、2012年よりイントラネット上にホームページを設置しています。サイト内には、活動に関する経営層からのメッセージや、毎月ごとの活動事例を報告する「かわらばん」、事務局からの最新ニュースなどを掲載し、QR活動に関するあらゆる情報を集約しています。

ナショナルスタッフ研修での啓蒙

2012年より実施していますナショナルスタッフ研修において、海外グループ会社の現地スタッフにも活動内容を伝えることを目的に、不二製油の企業理念浸透の研修にて年2回QR活動の紹介を行っています。今後も研修を通して現地スタッフへの啓蒙を継続していきます。



ナショナルスタッフ研修

人材育成

研修体制

📍 スキルアップを支援する研修体制

不二製油では、役員から管理職、一般社員、新入社員などの階層ごとに研修を実施し、従業員のスキルアップを支援しています。また、希望者を外部のセミナーに派遣したり、通信教育受講にあたって補助金を支給するなど、補助制度も充実させています。

また、世界を相手に仕事ができるグローバル人材育成として、2011年度から中堅社員対象に半年間の海外経験を積む制度を行っています。今後より充実した育成プログラムの開発を進めます。

📍 社員と上司がキャリアについて話し合う機会を提供

個々の社員が「幅広く活躍できるようにすることは、社員の仕事への満足度を高めるうえでも重要です。そこで不二製油は、OJTやJOBローテーションを通して社員が活躍の機会を得られるよう、社員とその上司がキャリアについて話し合える機会を設けています。

入社3年未満を除く社員（管理職を含む）は、年1回（2013年は12月）、キャリアについての希望をまとめた「キャリアアップコミュニケーションシート」をもとに上司と面談します。転属や海外勤務などを望む従業員はこの際に希望を伝えることができます。

📍 階層別研修の整備

不二製油では、「企業の発展は人の育成から」という考えのもと、階層別の研修体系を整備し、キャリアアップ支援の充実を図ってきました。近年はグローバル展開の加速化を踏まえ、次代の経営者となる管理職の研修にも力を入れています。

2005年度から実施している「部長研修」は、経営に参画できる人材の育成を意識し、経営課題などについて経営層へ提言するという、経営に踏み込んだ内容としています。2013年度は、15名が部長研修に参加しました。さらに2008年度からは、部長研修の受講者に、経営に対する基礎知識を身につける「ビジネススキルアップ研修」を併せて受講するよう義務付けています。

■ 研修体系（2013年度）

階層	階層別研修	目的別研修	選択型研修	研修助成ほか
役員	役員研修			
管理職	昇格者研修	組織長研修 研修係長 研修部長 ダイバーシティセミナー 女性ステップアップ研修 開発基礎講座 若手生産技能研修 部門研修 安全衛生教育	財務分析研修 マーケティング研修 経営戦略研修	外部セミナー等への派遣 公的資格取得助成 通信教育受講助成
監督職	昇格者研修	研修海外		海外早期トレーニング制度
中堅社員	昇格者研修			
新入社員	新入社員・中途社員研修			
非正社員	コンプライアンス・不二を知ってもらう研修			

■ 管理者研修実績（部長研修、新任管理者研修、考課者研修）（2013年度）

	実施時期	回数	備考
(1) 部長研修	10月・11月	2回	原則毎年開催
(2) 新任管理者研修	9月	1回	毎年開催
(3) 考課者訓練（新任者対象）	8月	1回（1日）	毎年開催

グローバル人材の育成

海外早期トレーニー制度の実施

不二製油では、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的に、若手社員を対象にした約6カ月間の海外研修制度「海外早期トレーニー制度」を2011年6月に設けました。

2013年度は7名を選抜し、海外グループ会社で6カ月間の研修を実施しました。販売、研究開発、生産職の計7名が、シンガポール、マレーシア、タイ、アメリカ、ベルギーに渡り、今回初めて女性1名が参加。研修先で行った語学研修、現場研修を通じて、異文化、多様性を生身で感じて帰国しました。今後の世界での活躍が期待されます。

2011年と2012年のトレーニー17名のうち6名は、すでに海外のグループ会社に出向し、研修の経験を活かして活躍をしています。



フジオイル（シンガポール）

海外グループ会社ナショナルスタッフの研修体制を構築

グループ経営を推進するうえで、海外グループ会社の現地スタッフと企業理念や経営基本方針を共有することが重要です。このため、2012年度より本社で、海外グループ会社のマネージャー層を対象とした研修を、英語、中国語の2グループに分けて実施しています。2013年度は22名（英語11名、中国語11名）が受講し、帰国後は各社で企業理念や経営基本方針の浸透を図っています。



中国語グループの研修生

ダイバーシティの推進

多様な人材の活用

海外展開を進めてきた不二製油では、自社のニーズに合った能力を持つ人材を、国籍を問わず採用しています。2013年度は、外国籍の社員2名を採用しました。

また、高齢者雇用安定法の改正にともない、65歳を上限とする定年退職者再雇用制度を設け、運用しています。再雇用にあたっては、個別に面談を実施し、就労条件が本人の希望にできるだけ沿うよう努めています。2013年度は、11名が定年を迎え、希望者10名全員が引き続き活躍しています。

就職困難者を対象とした面接会に参加するなど、障害者雇用にも取り組んでいます。当社の2013年度の障害者雇用率は2.03%で、法定雇用率2.0%を上回りました。

女性の活躍推進にも取り組んでおり、2014年4月時点での女性管理職比率は3.4%と前年に比べ上昇しています。



歩行が困難な社員のため、通路に手すりを設置するなど、インフラ面でも配慮

定年退職者雇用率（不二製油）



障がい者雇用率（不二製油）



管理職への登用、職域拡大など女性活躍推進の拡大

当社グループは外部環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、多様な属性や価値・発想を取り入れることができるよう、女性活躍推進にも力を入れています。女性管理職は2013年度の7名から2014年度は10名で3.4%（全管理職中）と着実に増加、2014年度には女性管理職が初めて海外グループ会社へ出向するなど、活躍の場が広がっています。また、女性の職域拡大を図るため、2014年度には新卒正社員で初めて生産職場への女性配属を開始しています。

フジ ベジタブル オイル（アメリカ）では2013年末時点で、全管理職に女性が占める割合が20%を超える（全管理職23名中5名が女性）など優秀な女性の積極的な登用と、安心して活躍しやすい職場づくりに取り組んでいます。

また、中国のグループ会社・不二製油（張家港）有限公司では、係長以上の役職者62人（出向者含む）のうち12名が女性、多くがワーキングマザーです。



女性による国内開発グループの打ち合わせ

カムバック・エントリー制度など育児勤務者支援策の充実

従業員のワーク・ライフ・バランス、特に育児や介護と仕事の両立を支援し、多様な働き方ができる環境整備を進めています。2013年度は11名（対前年2名増、うち男性3名）が育児休暇を取得しました。

出産、育児、介護などでやむを得ず退職した従業員が、当人の希望に沿った勤務形態で職場復帰できる「カムバック・エントリー制度」を2011年度から導入しており、2013年度は2名が登録しました。

また、子育てサポート企業としての認定「くるみんマーク」を2010年度に引き続き取得し、活動しています。



次世代認定マーク
「くるみん」を取得

TOPICS

ダイバーシティ西日本勉強会「育児とキャリアの両立セミナー」開催

2013年より、関西企業34社が知識と経験を共有し、実践的な学びを得る場「ダイバーシティ西日本勉強会」に参画、育児勤務者活躍支援チームで活動しています。5月30日に開催した「育児とキャリアの両立セミナー」には各社から約70名が参加、上司代表者の講演、育児勤務者パネリスト3名の登壇、グループディスカッションと活発に議論いただきました。上司からは「当事者の思いや、上司としてどう対応すべきか理解できた」など、多くのコメントが寄せられました。今回のセミナーが良い機会となり、今後のキャリア形成につながればと期待しています。



上司代表（松本 智樹執行役員）の講演

ワーク・ライフ・バランスの推進

2014年度より全社でフレックスタイム制度を導入

ワーク・ライフ・バランスの充実は、当社グループのさらなる発展のために欠かせない取り組みです。従業員の業務内容や家庭環境は多岐にわたっており、柔軟性ある労働時間勤務が必要です。そこで、一部の事業所で実施していたフレックスタイム制度を、全社統一の制度として、業務の効率化・育児・介護など、継続性をともなう事由がある従業員を対象に2014年度より実施しています。

「不ニアクティブネットワーク（FAN）」の定着・推進

1998年に設置した「不ニアクティブネットワーク」では、男女の区別なく誰もが自らの能力を発揮できる職場風土づくりを目指し、現在は仕事と育児の両立支援や従業員の意識改革、仕事と介護の両立などに取り組んでいます。2013年度は、ワーク・ライフ・バランスおよび介護支援制度とその利用法を紹介するセミナーを計3回実施しました。



外部講師を招いてのワーク・ライフ・バランスセミナー

人権への配慮

不二製油グループは、基本的人権に配慮し、国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別をしないことなどを「人材理念」および「不二製油グループ行動規範」に明記し、国内外で共有しています。2013年1月からは、持続可能な社会の実現に向けて人権を含む各課題への対処の枠組みを定めた「国連グローバル・コンパクト」にも参加しています。

これらの規範や枠組みのもと、不二製油グループでは、研修で行動規範の内容を浸透させるとともに、グループ報に関連記事を掲載するなどして人権啓発に取り組んできました。加えて、「人権」をテーマとした研修プログラムの策定・実施に向けて準備を進めており、2014年度は、特に人権に関連した研修としてハラスメントに関するテーマで社内勉強会や産業力カウンセラーによる講習会を実施しています。



行動規範の啓発ポスター

通報・相談窓口の設置

不二製油グループは、非正規雇用を含むすべての従業員、国内グループ会社の従業員が利用できる通報窓口を社内外に設置し、人権・労働に関することを含めて、コンプライアンス上の疑問点やトラブルについての相談を受け付けています。

社内窓口は人事総務担当役員および法務部長に、社外窓口は弁護士事務所に直通しており、いずれの窓口でも、公益通報者保護法に準じて通報者に不利益がないよう配慮しています。これらの窓口については、社内研修、イントラネットやポスターを通じて周知しています。

これまで通報窓口の言語対応は日本語のみでしたが、2014年度内には英語および中国語対応の通報窓口の設置を完了する予定です。

公平・公正な評価

不二製油では、「公平・公正な人事制度を構築・運営すること」を明記した人材理念に基づき、社員の考課に関して年1回上司のとの面談※を実施するほか（キャリアに関する面談※の6カ月程度後）、昇格試験の結果を開示してその内容について上司と話し合うことができる場を提供しています。

2013年度には管理職の人事制度・処遇に関する検討を行いました。社員全員がイキイキと働ける風土づくりに向けて、2015年度からの導入を目指しています。

※ キャリアに関する面談については「[社員と上司がキャリアについて話し合う機会を提供](#)」を参照

労使関係

不二製油では、「労使対等の対話」を大切にし、労使相互の信頼関係の構築に注力しています。

ユニオンショップ制の導入により、管理職を除くすべての社員が労働組合に所属しています。会社と労働組合とは活発に協議を行い、経営状況や会社の方針などについて情報交換する「中央労使懇談会」を毎月開催しています。また、労働協約に則って「労使協議会」を随時開催し、従業員の昇給や賞与に関する交渉、社内の規則・規程の見直しなどに関する議論を行っています。これらの交渉・議論は、会社の業績や動向、経営の諸問題、世の中の動きなどについて労使が情報を共有したうえで、プロセスを踏んで進めています。

今後もワーク・ライフ・バランスのさらなる充実など人事諸制度に関する課題の解決を目指し、労使協調して取り組んでいきます。

非正規雇用の正規化

不二製油では、非正規雇用社員を正社員に登用する制度を設けており、年1回、登用試験を実施しています。2013年度には、本制度によって3名に登用しました。今後も本制度を通じて、能力と意欲のある人材に登用の機会を提供していきます。

従業員データ

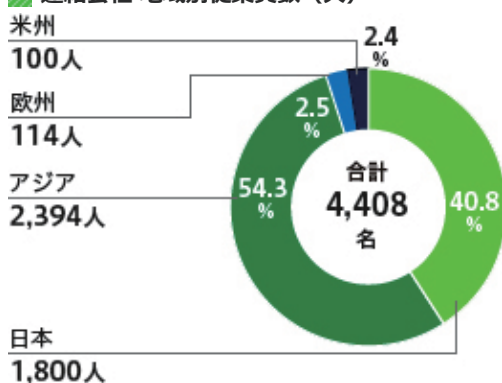
従業員数内訳（不二製油、2014年3月31日現在）（人）

	男性	女性	計
役員（社外役員除く）	15	0	15
正社員・嘱託	983	188	1,171
準社員	79	51	130
契約社員	66	27	93
平均年齢（従業員）	42歳8カ月	37歳6カ月	41歳11カ月
平均勤続年数（従業員）	18年10カ月	15年0カ月	18年4カ月
自己都合による離職率	-	-	0.58%

新卒採用者数（人）

	2011年度		2012年度		2013年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学・大学院卒	15	6	15	6	15	6
高校・高専・短大・専門卒	10	0	6	1	4	1
合計	31		28		26	

連結会社 地域別従業員数（人）



労働安全衛生

労働安全衛生向上への取り組み

不二製油は、生産拠点での労働災害の発生防止を重要な課題と考え、対策に努めています。特に、これまでは、普段の作業中での注意不足が災害の発生につながってきたことから、危険予知の習慣付けなどに継続的に取り組んでいます。

2013年の国内グループの全労働災害発生件数は18件（うち休業災害が1件）となり、災害は減少しました。しかし、機械による挟まれ比率が高くなっており、引き続き災害発生防止に注力していきます。

阪南事業所では、回転体への巻き込まれなどを疑似体験できる、体感器機を社内に設備化し、これを活用して安全のポイントを教育する安全体感教育を2013年度も継続実施しました。



安全体感教育

不二製油・国内グループ会社災害合計（計）

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
不休災害	15	14	13	20	17
休業災害※	2	4	6	4	1
合計	17	18	19	24	18

※ 休業災害：休業1日以上災害

海外グループ会社の取り組み

不二製油では、海外グループ会社に対して、「安全定期パトロール」を実施しています。2014年は、東南アジア2社、中国1社の安全パトロールを実施しました。

また、新たな取り組みとして、従業員数、総労働時間を加味した労働災害件数の調査を開始しました。これにより、各社の動向、問題点がより明確になります。今後もさらなる労働安全衛生の強化を図っていきます。

▶ [不二製油グループ 安全品質環境 基本方針](#)

社員の健康への取り組み

従業員の心身の健康を確保するためには、その健康管理を長期的に支援していく必要があります。このため不二製油では、メンタルカウンセリングの実施や健康相談窓口の設置、感染症などについての迅速な情報提供など、さまざまな取り組みを継続的に実施するとともに、その内容の充実に努めています。厚生労働省が特に予防を呼びかけている「生活習慣病」については、国内拠点で健康診断の際に40歳以上の従業員全員を対象として特定保健指導を実施しています。

2012年度は、海外出向者に対する健康管理の支援内容と体制を見直し、フォロー体制をより充実させました。2013年度には、健康診断実施後の2次検診の受診率向上に取り組んでいきます。また、2014年6月14日の衆議院本会議において可決・成立した「労働安全衛生法を一部改正する法律（通称：ストレスチェック義務化法案）」を踏まえ、社内でのストレスチェック制度の整備に向けて準備を開始しています。

サステナブル経営の推進

環境

食品を扱う事業者として、不二製油グループは、「安全・品質・環境を最優先する」ことを経営理念に掲げています。この経営理念に基づいて策定した「不二グループ環境基本方針」を原点に事業活動を推進しています。また、2014年には「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」を制定しました。

▶ [不二製油グループ 安全品質環境 基本方針](#)

私どもは「不二グループ環境ビジョン2020」で環境指標20%削減（対2003/05年平均値）を目指しています。給排水ではすでにこの数字を達成し、新たな目標設定を考えています。CO₂については対前年5.3%削減（基準年対比 9.8%削減）を達成して目標ラインに沿っています。目標以上の成果を得て、地球環境にやさしい企業を目指します。

取締役常務執行役員 生産管理本部長
内山 哲也



環境マネジメント

環境ビジョン

当社グループは2010年に「不二グループ環境ビジョン2020」を策定し、基準年（2003/05年平均）対比で2020年までのCO₂排出量、給排水量をそれぞれ20%削減する目標を設定し、環境保全活動を推進しています。国内における2013年度実績は、CO₂排出量は9.8%、給水量は20.7%、排水量は21.5%と基準年対比でそれぞれ削減しており、環境ビジョンは順調に推進しています。

引き続き、生産設備のリニューアルにおける省エネ設備の導入、日常の省エネ活動や給排水の削減に努めます。一方、海外におけるCO₂排出量は基準年対比では27%減となり、海外においても環境ビジョンは順調に推移しています。今後は海外グループ会社ごとの目標設定を行うことにより、さらにCO₂削減を推進します。

不二グループ環境ビジョン2020

国内
グループ

地球温暖化防止

CO₂排出量2020年20%低減（基準年対比[※]）

水資源の保全

給排水量2020年20%低減（基準年対比[※]）

資源リサイクル

再資源化率2020年99.8%以上

地球緑化、生物多様性への
積極取り組み

※基準年:03-05年平均値（東京都方式）

海外
グループ

CO₂排出量 2020年20%低減（2006年対比）

環境活動の目標と実績（2013年度）

○：目標を達成 △：目標を75%以上達成

	項目	内容	2013年度実績	環境ビジョン進捗（対基準年比較）	評価
1	省エネ推進 （国内グループ）	CO ₂ 排出量の削減	対前年5.3%の削減	9.8%の削減	○
2	給排水削減 （国内グループ）	給水量の削減	対前年4.2%の削減	20.7%の削減	○
		排水量の削減	対前年3.8%の削減	21.5%の削減	○
3	廃棄物削減 （国内グループ）	排出廃棄物の削減	再資源化率99.94%	再資源化率99.94%	○
4	省エネ推進 （海外グループ）	CO ₂ 排出量の削減	対前年0.6%の増加	27.0%の削減	○

安全品質環境委員会の設置

不二製油グループは2013年3月、「安全品質環境委員会」を新たに設置しました。安全・品質・環境とは当社の経営理念にも記された「経営の基本」であり、本委員会はグループ経営の基盤を確固たるものにするを目的として「企業活動による人的・物的危害の防止」「製品による顧客への被害の防止」「生産活動による環境負荷の低減」に関する政策を立案し、社長・経営会議に具申します。

※ 詳細については「コーポレート・ガバナンス」を参照

海外グループ会社への展開

海外グループ安全・品質・環境会議の実施

不二製油経営理念の「経営の基本」である安全・品質・環境の啓発、情報交換および意見交換によるグループ各社のレベルアップを目的に、2013年から海外でも安全・品質・環境会議を開催しています。その第1回として2013年12月に中国圏を対象に、2014年4月に東南アジア・欧米圏を対象に実施しました。

中国・天津不二蛋白の会議には7社が参加。各社の状況報告では、安全装置の不具合から起こった休業災害について発表されるなど、具体的な事例から横展開が行われました。また、フジオイル（シンガポール）での会議では、フジ ベジタブル オイル社から2013年から安全についての管理、啓蒙活動を強化したところ、2012年に12件起こった労働災害が翌年には4件に大幅低下したことが報告されました。

会議には、工場長や生産部長を中心に、安全衛生・品質保証・環境・保全の担当者が一堂に参集。担当役員による「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」※1の説明や、重要災害・品質問題事例の共有、環境ビジョン・実績およびTPM※2に関する説明が行われました。グループ各社からの状況報告にも活発な質疑応答があり、会議後、「他社の問題点や具体的な取り組み方、工夫点を知ることができた」、「自社にも生かせる点が見つかり有益だった」、「次回は保全にも力を入れてほしい」などの反響がありました。

今後もこれらのエリアで毎年定期的を開催し、海外グループ会社も含めた新たな安全・品質・環境基本方針を策定とともに、経営理念のグローバル化と共有化をさらに進めていきます。

※1：不二製油グループ 安全品質環境 基本方針

※2 TPM (Total Productive Maintenance)：生産効率を高めるための全社的活動



海外グループの
第1回安全・品質・環境会議

安全品質環境会議主催者のコメント

シンガポールで「不二グループ安全品質環境会議（東南アジア）」を主催することができ、光栄に思っています。

管理の行き届いた安全・品質・環境は、サステナブルな事業活動に欠かすことはできません。この会議で共有した情報を各社が持ち帰り、それぞれに業務改善を検討するよい機会になったと考えています。一方で、より深く議論するためには、もっと時間をかけ、さらに的を絞ったアプローチが必要であるとも感じました。

今後ますます充実した会議になることを願っています。



フジオイル（シンガポール）社長

Toe Yong Wan

📍 PIC活動※海外グループ会社の参加

PIC活動は、ボトムアップにより職場を改善することを目指しています。最前線で働く従業員が、自らの意志で日頃困っていることを課題として解消に取り組むのがこの活動です。地道に原因を追究して対策につなげるやり方を身に着ければ、職場の課題を克服して生産性向上につなげることができるという考えです。

海外グループ会社については、日本人出向者が中心となって現地で展開していますが、地域性があるため、日本人出向者とのコミュニケーションを密にして、有効な支援につなげています。

※ Productivity Improvement & Challenge 生産性改善と挑戦活動：生産部門の改善活動の強化と現場の活性化のための活動

環境マネジメント体制の強化

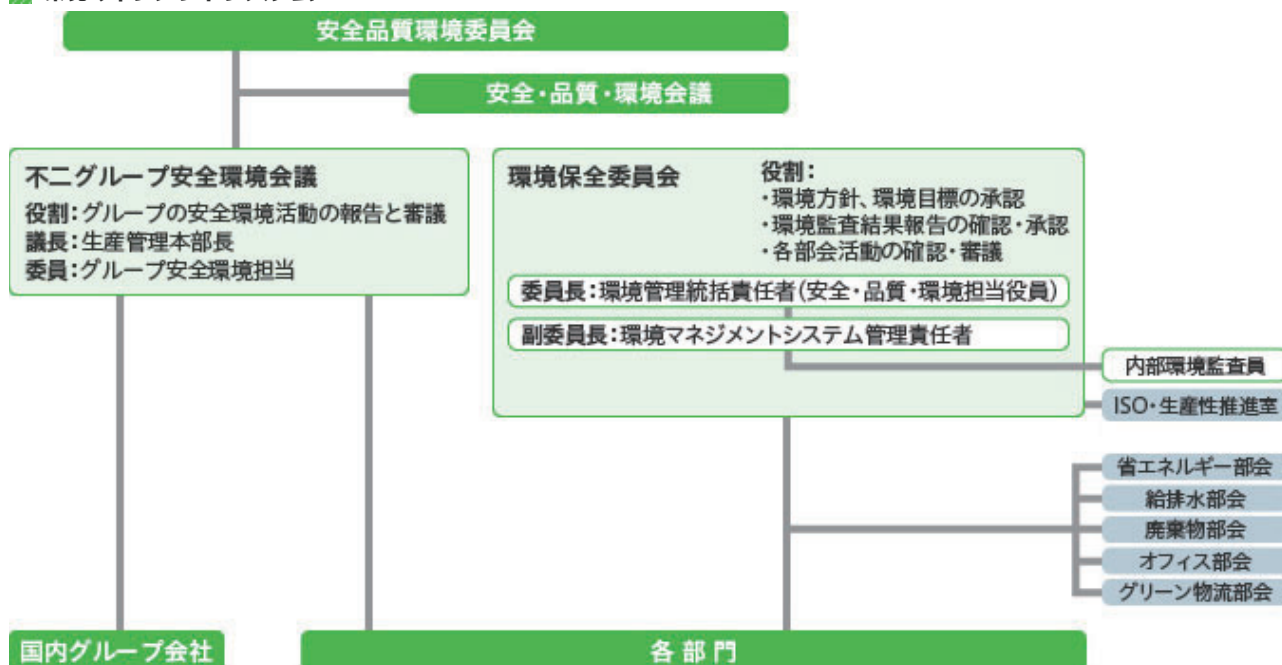
不二製油では、環境保全活動を統括する部署として「環境保全委員会」を設置するとともに、その下に「省エネルギー部会」「給排水部会」「廃棄物部会」「オフィス部会」「グリーン物流部会」の5つの専門部会を設けて環境保全活動を展開しています。

「環境保全委員会」には、環境管理統括責任者（安全・品質・環境担当役員）を委員長、環境マネジメントシステム管理責任者を副委員長として、各専門部会の代表と技術スタッフ、各事業所の環境担当者が参加します。環境方針の周知徹底に向けた活動の実施や、環境目標の設定とそれに基づく活動計画の立案、実績管理などを担っています。各専門部会は、環境保全委員会で定められた計画に沿って、具体的な活動内容を決定します。

このほか、「安全・品質・環境会議」を毎月開催しています。この会議は、生産関連の部署を中心に各部の部長が集まり、社長出席のもとで「安全」、「品質」、「環境」に関する課題を議論するものです。

さらに、国内グループ会社を交えての「不二グループ安全・環境会議」も年2回開催し、マネジメント体制を強化しています。

環境マネジメントシステム



ISO14001 認証取得と環境監査

ISO14001 認証の取得

不二製油グループでは、生産活動にともなう環境負荷をより厳密に管理するため、主だった生産拠点・グループ会社が環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

不二製油の拠点では、2000年9月に、グループの国内生産の85%を担う阪南事業所が認証を取得したのにはじまり、2010年12月までに国内生産工場全8工場と研究所で認証取得を完了しました。国内グループ会社ではオーム乳業（株）が、海外グループ会社ではウッドランド サニーフーズ社、パルマジュ エディブル オイル社が認証を取得しています。

ISO14001 認証取得状況

取得拠点		取得年月
不二製油（株）		
阪南事業所		2000年9月
神戸工場		2002年9月
堺工場		2003年7月
関東工場		2004年5月
たん白食品つくば工場		2004年12月
つくば研究開発センター		2004年12月
石川工場		2007年5月
千葉工場		2008年5月
りんくう工場		2010年12月
グループ会社		
国内	オーム乳業（株）	2005年3月
海外	フジオイル（シンガポール）	2012年2月
	ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）	2001年2月
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）	2009年3月
	フレイアバディ インドタマ（インドネシア）	2006年9月
	吉林不二蛋白	2013年12月

環境監査

不二製油と国内グループ会社では、生産拠点を含む各部署を対象に、「内部環境監査」を毎年実施し、環境関連法規制への対応状況などを確認しています。これに加えて、毎年ISO外部認証機関による「外部審査」を受けています。

2013年度は、国内では7月から9月にかけて不二製油・国内グループ会社の81部署に「内部環境監査」を、10月に「外部審査」を実施しており、ともに不適合は指摘されませんでした。要観察と指摘された事項については、迅速に改善に取り組みます。

今後もこれらの監査を継続するとともに、監査システムのスリム化や手順書の見直し、現場改善による合理化にも継続的に取り組んでいきます。

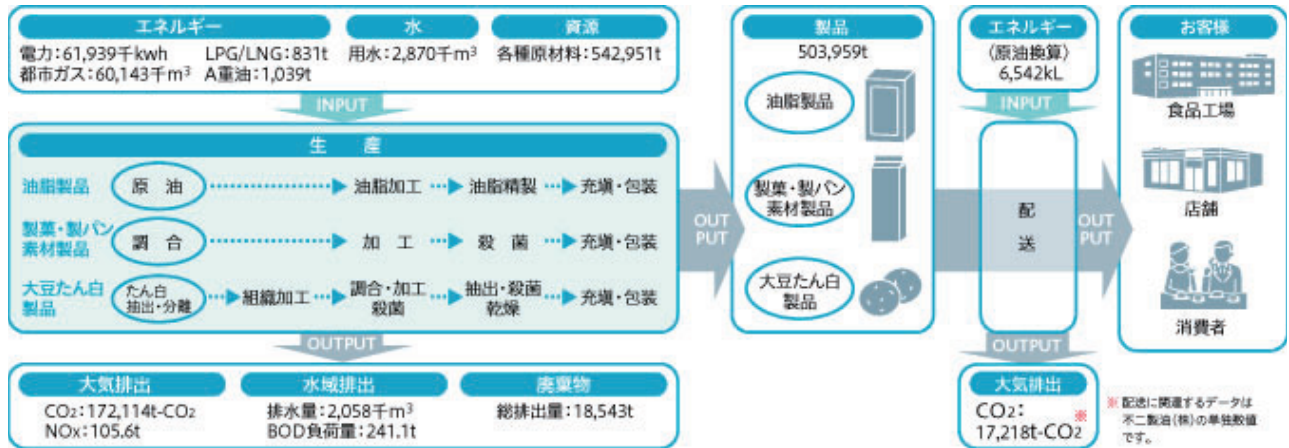
環境監査実績（国内グループ）

		内部環境監査	外部審査
2010年度	不適合	3	0
	観察事項	111	13
2011年度	不適合	0	1
	観察事項	82	12
2012年度	不適合	0	0
	観察事項	64	3
2013年度	不適合	0	0
	観察事項	59	2

事業活動と環境負荷低減（INPUT / OUTPUT）

不二製油グループでは、事業活動にともなって発生する環境負荷を低減するために、原材料の調達から生産、物流における資材・エネルギーの投入量（INPUT）、廃棄物などの排出量（OUTPUT）を把握し、分析しています。

環境負荷の全体像



環境会計

不二製油では、環境経営を推進するため、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠して、環境保全活動に要したコストとその効果を集計しています。

集計対象

不二製油株式会社（単独）

算定方法

- 投資額：投資目的の50%以上が環境保全であるものは、全額環境投資とみなしました。
- 減価償却費：投資目的の50%以上が環境保全であるものを過去6年間にさかのぼり一律12年間の定率消却としました。
- 直接把握が可能な費用については、原則として全額を集計しました。直接把握が困難な費用については、実態に即した比率で按分計算し、集計しました。
- 環境保全対策に伴う経済効果については、把握可能な効果のみを集計しました。

環境保全コスト（単位：百万円）

分類	主な取り組み事例	2011年度		2012年度		2013年度	
		環境投資額	費用額	環境投資額	費用額	環境投資額	費用額
事業エリア内コスト		155	981	236	941	108	930
内 訳	(1) 公害防止コスト	42.0	392	16.0	368	15.9	358
	(2) 地球環境保全コスト	33	293	181.9	291	16.1	260
	(3) 資源循環コスト	73.0	296	37.9	282	76.5	311
上・下流コスト	段ボールレス化設備の導入、グリーン購入費差など	7.0	0.111	41.1	6.800	78	18
管理活動コスト	ISO14001マネジメントシステムの構築、維持、社員教育、環境報告書作成費など	-	239	-	222	-	239
研究開発コスト	資源の高度利用研究など	-	111	-	122	-	147
社会活動コスト	工場周辺清掃活動、環境保全などを行う団体への支援など	-	3.61	-	3.16	-	3.44
環境損害対応コスト	汚染負荷量賦課金	-	8.10	-	8.02	-	7.85
合計		155	1,342	277	1,302	187	1,345

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2011年度	2012年度	2013年度	増減量
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	エネルギー使用量原単位	L/t	182.2	181.6	168.5	-13.1
	給水量	千m ³	2,661	2,580	2,496	-84
	給水量原単位	m ³ /t	5.61	5.64	5.32	-0.32
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量原単位	kg-CO ₂ /t	362.3	361.0	332.6	-28.4
	排水量	千m ³	1,851	1,811	1,767	-44
	排水量原単位	m ³ /t	3.90	3.96	3.77	-0.19
	廃棄物排出量	t	14,727	14,295	15,547	1,252
	廃棄物排出量原単位	kg/t	31.1	31.3	34.0	2.7
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	廃棄物再資源化率	%	99.90	99.98	99.97	-0.01
その他の環境保全効果	コンピュータ出力用紙	千枚	9,752	9,714		-9,714

※ エネルギーの換算係数等、データの見直しにより前年報告値と異なっているところがあります。

環境保全対策にともなう経済効果

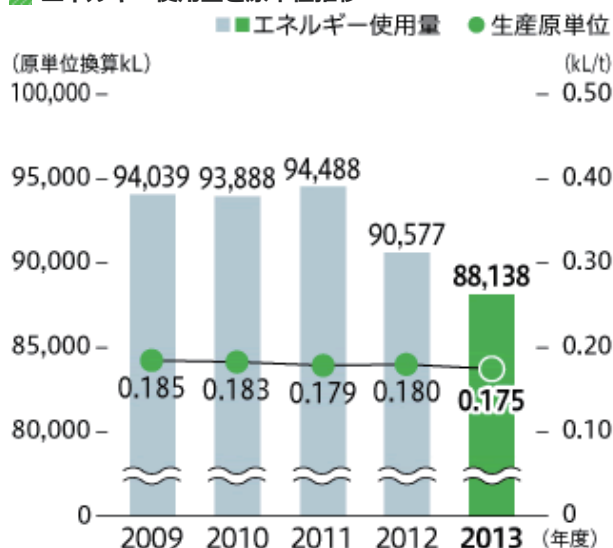
環境保全効果の分類	効果の内容	金額		
		2011年度	2012年度	2013年度
収益	廃棄物再資源化による有価物の売却益（おから、廃油、廃段ボール売却）	18	19	17
費用節減	エネルギー、給排水、廃棄物の削減によるコストダウン	14	87	160
合計		32	106	177

地球温暖化防止への取り組み

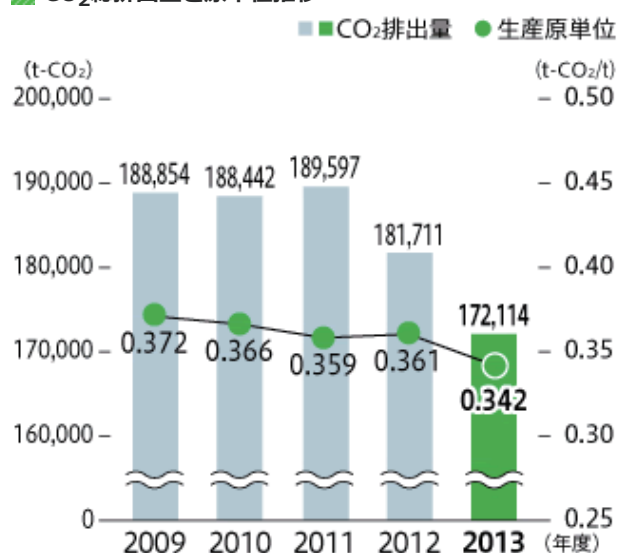
2013年度の国内グループ会社のCO₂排出量は約172,114t-CO₂となり、対前年5.3%減少しました。生産数量はほぼ横ばいでしたので原単位でも5.4%減少しました。「不二グループ環境ビジョン2020」の目標達成へ向け、着実に省エネ設備の導入や省エネ活動の推進の成果がでています。

また、海外グループ会社では354,126t-CO₂で対前年0.6%増となり、わずかに増加しましたが、燃料転換やコージェネレーション設備の導入など、CO₂排出量の削減に努めています。

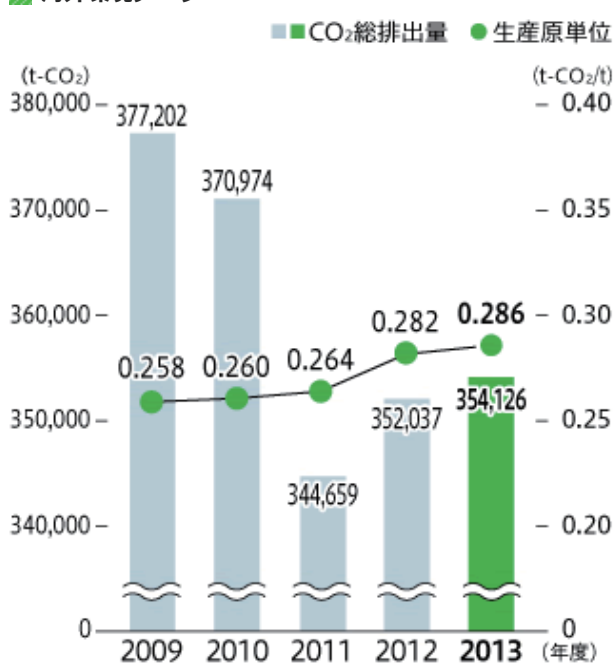
エネルギー使用量と原単位推移



CO₂総排出量と原単位推移



海外環境データ



省エネ技術の導入推進

国内グループの取り組み

不二製油および国内グループ各社では、事業活動によるCO₂の排出を減らすために、よりエネルギー効率の高い設備・技術の導入に取り組んでいます。2013年度はエネルギー使用量を原油換算で年間1,200kL削減することを目標に、大豆たん白製品関連や油脂製品関連設備を中心に、ヒートポンプ導入、排熱回収、制御方法変更、照明のLED化、空気使用量適正化見直しや漏れ補修改善による省電力（コンプレッサー運転大推移削減）、設備改修による省電力、その他蒸気漏れ補修、保温改修などを推し進め、エネルギー消費量を原油換算で年間1,098kL削減することができました。

2014年度は同様に大豆関連設備・油脂関連設備のプロセス見直しや改善により、排熱回収、温冷熱の工程内での熱交換、温水有効利用（吸収式冷凍機導入）、アイスコンデンス設備導入による省エネ、送風機の適正化などによる省電力などに取り組んでいます。



大豆たん白関連設備のヒートポンプ

生産技術の開発によるCO₂排出量の削減

不二製油グループでは製菓用やチョコレート用油脂の製造に欠かせない油脂分別技術やエステル交換技術の研究と改良技術にグループ全体で長年取り組んでおり、その技術も日々進化しています。

パーム油の分別では、省エネルギーにとどまらず溶剤使用を減らし、また、品質改良をすべくマレーシアを中心に乾式分別の技術開発に鋭意取り組んでいます。油脂精製では、エネルギー多消費の従来型真空発生装置をアイスコンデンス方式に転換するため、グループを挙げて早くから導入しマレーシア、アメリカ、ベルギー、日本で順次導入。2014年はシンガポールでも稼働予定です。CO₂排出量や排水量の削減、近隣への臭気軽減などに貢献する対策の横展開を計画しています。



アイスコンデンス式真空発生装置

節電への取り組み

2011年3月の東日本大震災以降、電力使用量を減らすことは社会的な要請となりました。不二製油では、東京電力株式会社の管内である関東工場、つくば工場、つくば研究開発センターを中心に、夏期・冬期の電力使用量削減とピークカット※に取り組んでいます。

2013年度においても、関東工場、平日と休日を入れ替えることでピークカットに取り組みました。

※ ある電力供給者の管内で電力需要がもっとも増大する時間帯（ピーク時）の発電要請を減らし、供給者が限界を超えた量の発電を求められることがないよう配慮すること

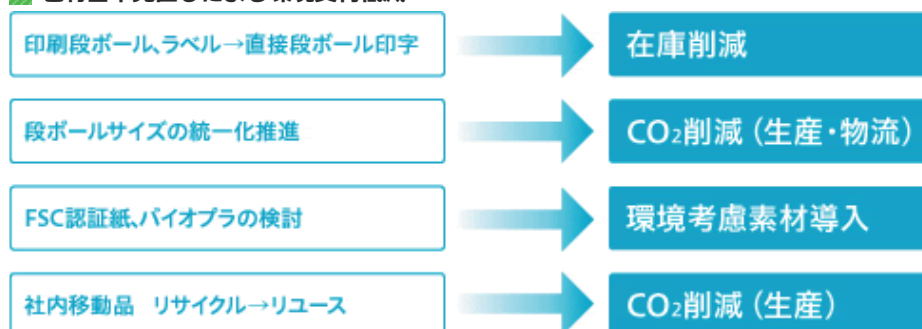
包材基準見直しによるCO₂削減を実現

包材の環境対応は2009年より取り組んでいます。まず「包材基準」を作成し、各工場の個別規格から一般品に切り替えました。段ボールは留型仕様が中心でしたが、本来必要な約15%を除き2013年度までに切り替えを完了しました。この取り組みにより364tのCO₂が削減され、薄化により物流効率も25%以上向上しました。フィルム、一斗缶でも薄化可能品は切り替えています。

温度帯、重量、品種によって包材基準を作成しており、今後は国内グループ会社、委託先にも広げて、集中・共同購買等を進め、さらに環境負荷の低減を図ります。海外グループ会社の包材購入の指針としても活用を予定しています。

新しい対策としては、段ボールへの直接印字・冷凍食品用の規格統一・持続可能な方法で管理された森林からの素材調達への切り替え、さらには社内移動用容器のリユース、紙や段ボール素材のリサイクル、フィルム素材のバイオプラスチック化などの検討を始めています。

包材基準見直しによる環境負荷低減



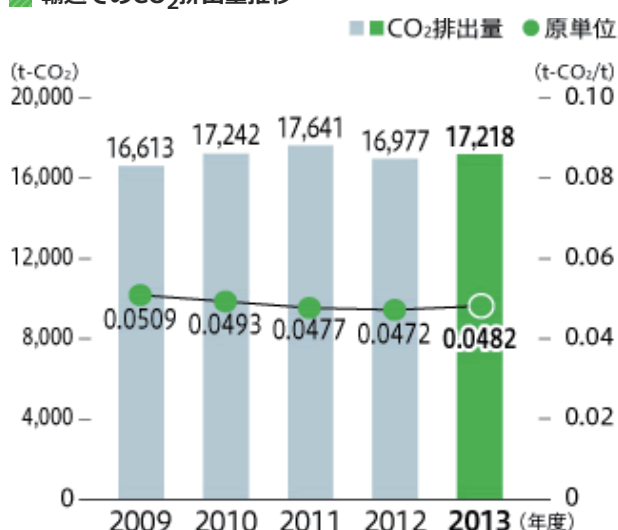
輸送によるCO₂削減の実現

当社では、CO₂排出量の抑制を目的とした鉄道貨物輸送への転換に取り組んでいます。

2013年度の輸送によるCO₂排出量と原単位は、輸送量の増加などにより前年に比べ微増しました。2013年度の鉄道輸送量は23,085tとなり、2012年度から1,228t増加しました。2013年9月には、国土交通省・鉄道貨物協会が推進する「エコレールマーク」の企業認定を取得しました。これは、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している企業に対して認定されるもので、マークの表示によって消費者の皆様判断基準を提供する制度です。鉄道輸送にはさまざまな制約がある中で、現行数量を維持できるよう努めています。



輸送でのCO₂排出量推移



鉄道輸送量の推移

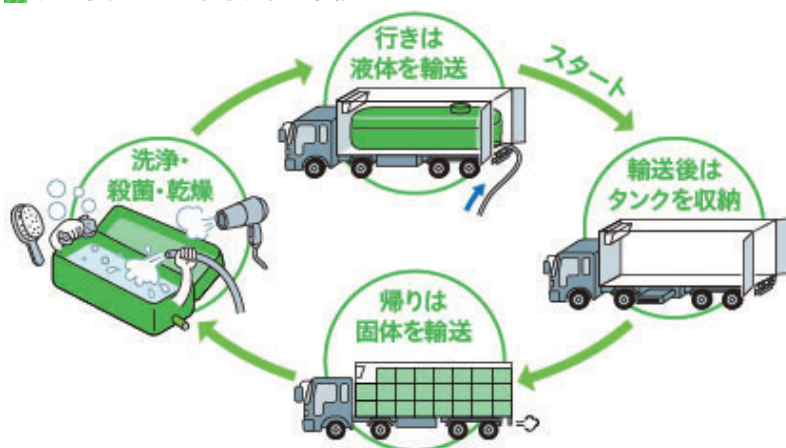


ソフトタンクの活用

不二製油では、北海道で生産される乳原料（脱脂濃縮乳）の輸送に「ソフトタンク」（1.2 tの液体が輸送できる袋）を利用し、通常の冷蔵トレーラー車で阪南工場へ液体を輸送しています。納入後は阪南工場で生産された製品（固体）を積み込み、北海道へ戻ることにより、液体と固体のラウンド輸送を確立させてました。

昨今の人手不足によるトラックドライバー減少への対応も含め、環境にやさしく持続可能な輸送方法として取り組んでいます。

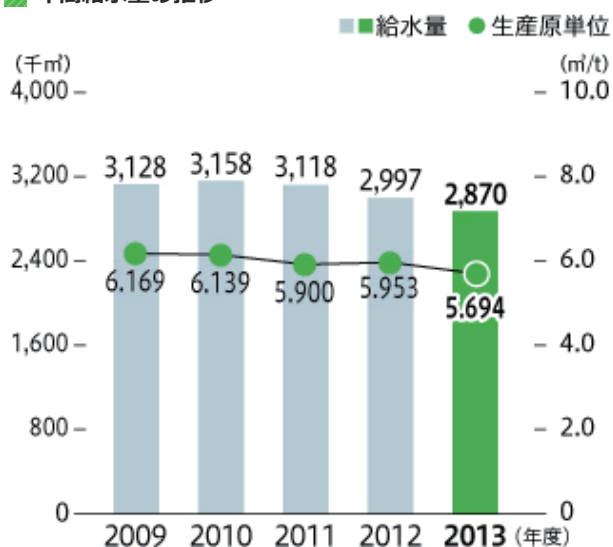
ソフトタンクによるラウンド輸送



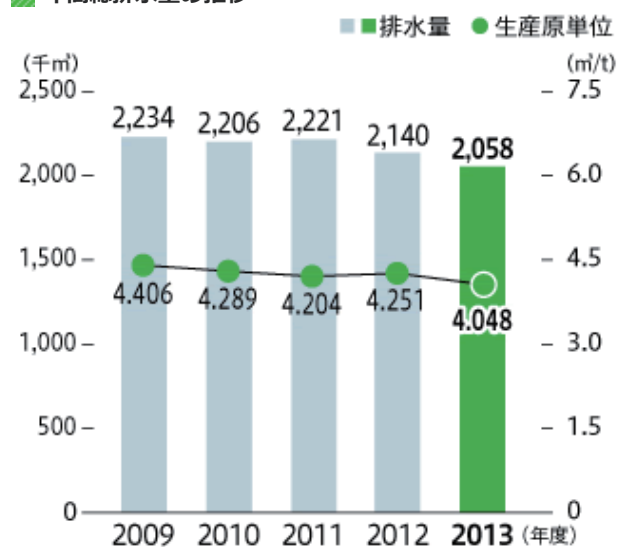
水資源の保全

2013年度の当社および国内グループ会社の給水量は、2012年度対比4.2%減の約2,870千m³となり、生産原単位では4.4%減少しました。排水量についても、総量は2012年度対比で3.8%減少となり、生産原単位でも4.8%減少しました。各工場が地道な節水活動に取り組み、給排水量削減を実行することができました。

年間給水量の推移



年間総排水量の推移



資源の有効活用

廃棄物の削減・リサイクル

国内グループ全体で廃棄物を削減

2012年度の不二製油および国内グループ会社の廃棄物排出量は、2011年度対比4.3%減の17,372tとなりました。生産量の減少に加えて、生産・販売の連携で在庫管理を強化することにより、製品廃棄を減少させる地道な努力の継続が奏効しています。

また、2011年に検討した燃えがら・ばいじんのセメント原料への再資源化を実績化することができました。国内での2013年度の再資源化率は99.94%と、高いレベルで維持しています。

廃棄物総排出量と再資源化率



1tボックス、小ロットタンクによる容器・廃棄物削減

一斗缶（内容量15～16kg）または段ボール（内容量15～25kg）について、内容量1tの特殊容器への切り替えを進め、お客様の包材廃棄物削減に寄与しています。また、小ロット多品種生産が多い当社では、これまで小容量の油脂の保管にスチールドラムが使われてきましたが、まとまった数の特殊小容量タンクを設置することでスチールドラムの使用量を削減しています。

📍 食品リサイクルへの取り組み

不二製油における、食品リサイクル法に基づく「食品廃棄物等」の発生量は、2013年度時点で約41,000tとなり、前年度に比べ約5,000t減少しました。これは乾燥おから発生量の減少によるものでした。一方、そのリサイクル率は99.1%と維持しており、これらの廃棄物の多くを資源として有効利用しています。

同法が食品製造業界に対して設けている目標は「食品循環資源の再生利用等（食品リサイクル）の実施率85%以上」ですが、当社は目標設定当初の2007年度から97.3%と高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。この水準を今後も維持すべく、取り組みを続けていきます。

■ 食品廃棄物総発生量・再生利用

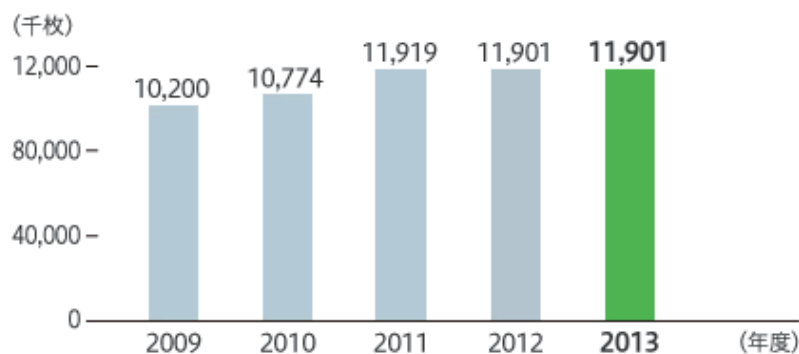


📍 オフィスでの紙使用量削減

不二製油では、生産拠点で生じる廃棄物だけでなく、オフィスで発生する廃棄物の削減にも継続的に取り組んでいます。

このうち特に廃棄量が多いコピー用紙、コンピュータ出力用紙については、2012年度は、わずかながらの減少ができましたが、管理強化を再度徹底し、削減に努めていきます。

■ オフィス拠点でのOA用紙使用量



汚染防止

不二製油グループでは、大気、水域への汚染物質の排出を防止するため、法令に基づいた措置を行っているほか、船舶の停泊時にオイルフェンスを設置するなど、自主的な取り組みも可能な限り実施しています。

生物多様性の保全

「阪南の森」プロジェクトを継続

不二製油阪南事業所では、大阪府の「アドプトフォレスト制度※」を利用して、2013年度は計9回の活動を実施し、延べ93人が参加し、竹の伐採、下草刈り、伐採竹による三角テーブル作成などを行い、2012年度に引き続き植樹も実施しました。

※ 大阪府が企業と森林所有者を仲介し、森づくりへの参画を助ける制度



阪南の森プロジェクトメンバー

海外グループ会社の2013年度環境データ

不二グループ海外生産拠点の環境データ集計を行い、グループ全体で環境活動に取り組んでいます。

集計内容

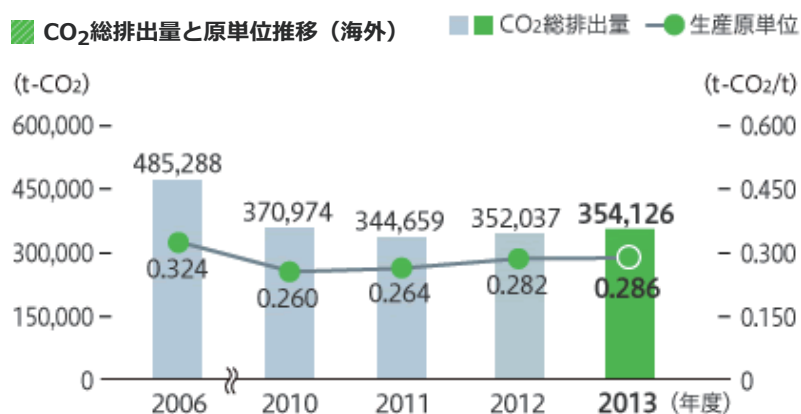
- 2009年度～2013年度の環境データ（エネルギー、給排水、廃棄物）
- 対象拠点：海外生産拠点12社

※2012年度より本格的な操業を開始したFUJI OIL (THAILAND) CO., LTD.、深圳旭洋綠色食品有限公司の2社を集計範囲に加えています。

CO₂総排出量（海外）

2013年度のCO₂総排出量は対前年100.6%と昨年とほぼ同様でしたが、生産数量が対前年99.3%と微減したため、生産量原単位は対前年で101.3%と微増する結果となりました。

海外グループ全体での環境ビジョン目標（2006年対比2020年20%低減）については、2006年対比27.0%減少と目標を達成していますが、フジオイル ヨーロッパ、山東龍藤不二食品有限公司以外の会社は対前年で増加しています。



給排水量（海外）

2013年度の給水量は対前年98.0%と昨年より減少し、生産量原単位も98.7%と減少しました。

一方、排水量は対前年103.3%と昨年より増加し、生産量原単位も104.1%と増加する結果となりました。

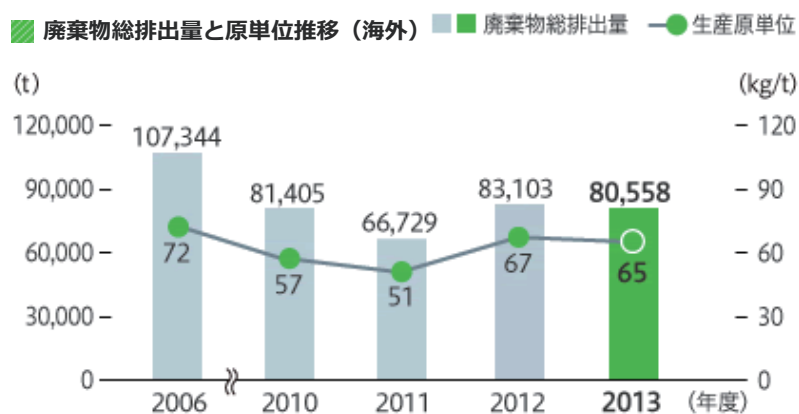
排水量は山東龍藤不二食品有限公司以外は対前年で増加しています。



廃棄物排出量（海外）

2013年度の廃棄物総排出量は対前年96.9%と減少し、生産量原単位も対前年97.6%と減少しました。

最終処分率は、2012年3.3%に対し、2013年2.9%で向上しています。



サステナブル経営の推進

サステナブル調達

持続可能な方法で生産された原料で、持続可能な製品を企画・開発・生産し、お客様・消費者の皆様はその価値をお伝えする。そのような経営をグローバルで推進するため各種ステークホルダーとも連携し取り組んでいます。

当社グループの製品をお客様に満足していただくことが経営の基盤です。お客様に満足していただける製品を作るためには、原材料が常に安定して良質であることが必須です。当社グループでは、信頼するサプライヤーと共に、原料と資材の持続的安定調達に取り組んでいます。主要な植物性原料のパーム、カカオ、大豆については、特に限りある大切な食糧資源であることを認識し、人権や環境保全にも配慮し、グローバルに調達を行っています。

取締役常務執行役員 事業本部長
木本 実



持続可能な調達のために

お客様への供給責任を果たすためにもサステナブル調達は大変重要です。お取引先に対しては、「CSR調達ガイドライン」を策定、アンケートを実施することで、より公平・公正な取引に努めています。農園にまで遡って、生産、労働環境、人権および地球環境への配慮を行うことが必要であり、不二製油はグループ会社とともに、RSPO※1認証原料の調達やUTZ※2（ウツ）認証の取得などに注力し、長期にわたって安心して調達をできるように対策を講じています。

※1 RSPO：持続可能なパーム油のための円卓会議

※2 UTZ：将来にわたり、続けることができる農業のための国際的な認証プログラム

公平・公正な取引

基本的な考え方

不二製油は、法令や社会規範を遵守して公正で公平な取引を徹底することを取引の基本としています。なかでも調達取引においては、2010年に「購買基本方針」を策定し、お取引先を含むサプライチェーン全体で社会的責任を遂行することを目指しています。

購買基本方針（CSR調達）

1. 法令、社会規範を遵守しISO9001の原料部購買基準及び資材部購買基準に基づいて、巾広くお取引先から公平・公正な取引の下、良い品質の原材料を適正な価格で安定的に調達いたします。
（公平、公正、遵法・倫理性）
2. 上記目標を達成するために、お取引先と共同の創造的活動により連携を深め共存・共栄を果たしていきます。
（パートナーシップ）
3. 持続的発展可能な社会の実現への貢献を目指すために地球環境や労働、人権などに配慮した調達を行います。
（社会的責任）

下請法などの遵守

不二製油グループは、「調達」、「販売」の両面で関連法規を遵守し、公平、公正な取引を追求しています。

不二製油では、2010年策定の「購買基本方針」に、公平・公正な取引を行うこと、適正な価格で調達することを明記しています。この方針を実践するためには、下請法や独占禁止法など各国・地域の取引関連法規について、従業員が正しい知識を得ることが不可欠です。そこで、関連部署で働く全従業員を対象とした講習を毎年実施しています。

サステナブル調達の実践

基本的な考え方

原料調達は、より高品質で安価な原料を求めて調査を行い、原産地に出向いたり工場を訪問して、使用基準に合致しているか安全確認をしながらサプライヤーとの関係強化を図っています。

世界の人口増加にともなう食資源不足への不安もあり、生産性の向上も重要です。例えば、カカオ豆については、産地のみならず特定の地域や農園から購入することを前提とした「トレーサブルカカオ豆」を一部採用しており、購入代金の一部が生産地でのインフラ整備や教育の向上に役立てられています。現地での生産活動を支援する仕組みが広がりつつあり、当社グループもトレーサブル（生産地が特定できる）カカオやトレーサブルなパーム油の調達を徐々に実施しています。

人権や環境に配慮した原料調達

不二製油グループは、生産者の労働環境などが適正であること、近隣の自然環境に悪影響のない方法で生産され流通していることが確認できる原材料の調達に取り組んでいます。例えば、パーム油に関しては、RSPOの加盟企業とのみ取引しています。

📍 RSPO認証への対応

当社グループでは、地球環境に配慮し、パーム油を将来にわたり長く使用するため、RSPOに2004年より加盟しています。

近年、お客様からのRSPO認証製品への要望の高まりを受け、フジオイル ヨーロッパでは2013年度よりパーム油分別工程を完全にSG※1対応をしています。日本では2014年8月より油脂事業部（タンクヤード、油脂工場）でSG・MB※2を取得しました。

また、フジ ベジタブル オイルでは、2014年度より既存のサプライチェーンに加え、新たなRSPO認証原料購入先と取引を開始しています。



※1 SG：複数の認証農園からの認証油が、最終利用者に至るまで非認証油と混合することなく取引されること。

※2 MB：管理・流通の中で非認証油との混合が認められる油のこと。

📊 認証油の管理方式

1. Identify Preserved (IP)

単一の認証農園からの認証油が、最終利用者に至るまで非認証油と混合されことなく取引されている。

2. Segregation (SG)

複数の認証農園からの認証油が、最終利用者に至るまで非認証油と混合されことなく取引されている。

3. Mass Balance (MB)

管理・流通の中で非認証油との混合が認められるが、その比率は最終利用段階まで厳密に記録されている。（例：認証油70% 非認証油30% など。）

利用者は当初の認証油相当量のみを認証油とみなす。

4. Book and Claim (BC)

認証農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行される「認証クレジット」を必要量購入している。購入資金は生産者が認証を維持して活動するための費用に充てられ、クレジット購入者は使用した非認証油の量と同量の認証油の生産を支援したものとみなされる。

RSPO サプライチェーン認証取得状況

取得拠点	
グループ会社	
海外	フジ ベジタブル オイル（アメリカ）
	フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）
	フジオイル（シンガポール）
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）
	不二製油（張家港）（中国）
	フジオイル アジア（シンガポール）
	フジオイル（タイランド）

UTZ認証への対応

フジオイル ヨーロッパは、一部の製品でUTZ認証を取得し、生産を開始しています。現状ではUTZ認証製品の価格が高いことが課題となっていますが、問い合わせは多く寄せられています。



WCF財団への加盟

世界カカオ財団（World Cocoa Foundation）による、農家への技術提供などによって持続可能なカカオ経済の進展を目指す活動に賛同し、2012年に同財団に加盟しました。この活動の基本的な考え方は、同財団の「サステナビリティ3原則」に集約されています。さらに2012年度からは、購入するカカオ豆の一部を「トレーサブルカカオ豆」とする取り組みも開始しました。「トレーサブル」という言葉は通常、原産地や流通経路が明らかであることをさしますが、このカカオ豆は産地や生産農園が特定できるだけでなく、購入資金の一部が生産地でのインフラ整備や教育の質の向上などに役立てられます。

このほか、フジオイル ヨーロッパではフェアトレードの認証を取得し、お客様のご要望に応じてフェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。



トレーサブルカカオの管理体制などを現地で確認

世界カカオ財団の3原則



WCF サステナビリティ3原則

- 利益** 農家のための公正かつ十分な経済的利益
- 人** 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
- 地球** 信頼できる確かな環境に対する責務

GSAへの加盟

フジオイル ヨーロッパは2013年、ガーナにあるインターナショナル オイルズ アンド ファッツ（IOF）に資本参加し、シアビジネスに参入したのを機会に、2014年、The Global SheaAlliance（GSA）に加盟しました。IOFは来年加盟の予定です。

GSAは、シア脂（西アフリカで産出されシアからとれる植物性油脂）のバリューチェーンに携わるあらゆるステークホルダーによる同盟です。シア産業の振興とアフリカ農村域の女性とコミュニティの生活水準の向上を使命としています。GSAを通して、シアの持続可能性を目的とした取り組みを支援していきます。



📍 非遺伝子組み換え大豆の調達

当社グループでは、遺伝子組み換え（GMO）大豆は調達しておりません。

北米産原料の調達に際しては、厳しい分別管理のもと、Non-GMO大豆の輸送・補完を実施しており、製造状況、分別管理状況チェックのため、毎年現地を訪問しています。

中国では現在、GMO大豆の栽培は原則禁止されています。中国で信頼度の高いNon-GMO大豆は黒龍江省産で、吉林不二蛋白有限公司は産地に近いメリットを活かし、より安全な大豆の安定調達を図っています。



大豆畑の様子

安定調達のために

📍 より災害に強い調達方法の検討

不二製油では、災害発生時などの緊急時にも安定的な調達ができるよう、原料、包装材、食品添加剤、工業薬品などの調達品目ごとに、調達の方法や調達取引先を随時見直しています。

例えば、2010年度から、梱包資材の規格統一を進めています。緊急時の調達先の振り替えなどを容易にし、調達が滞りにくい体制をつくる狙いです。すでにダンボールでは規格統一を完了しており、2013年度からは梱包フィルムでも規格統一を進めます。

また、製品原料では、1つの原料を複数の取引先から購入するよう取引体制を見直しています（複数購買化）。2013年度からは、対象となる品目の拡大も検討していく予定です。こうした取り組みによって緊急時の調達リスクを減らすとともに、調達価格の高騰を回避しています。

📍 取引先の災害リスクの把握

大地震などの大規模災害の発生時において、サプライチェーン全体で事業継続することは重要な課題です。不二製油グループでは、災害による原材料などの供給遅滞リスクについて調達取引先ごとに把握し、対策に努めています。

2012年8月には、近い将来発生すると予想されている「南海トラフ巨大地震」被害想定の内閣府からの発表をもとに、調達取引先各社の想定震度・津波を把握いただいた上でアンケートを実施し、生産状況の実態や緊急時の体制について確認しました。この結果、対象とした調達取引先86%から、地震発生時より2週間以内に原材料などの供給を再開できるとの回答を得ました。一方、BCPの策定状況についても確認したところ、策定済または検討中の調達取引先は全体の40%にとどまりました。

今後はこの結果をもとに、サプライチェーンを見直すとともに、調達取引先でのBCP策定を呼びかけていく予定です。2013年度に再度アンケートを実施し、継続的に状況を確認していきます。

※ 不二製油でのBCP策定については「[リスクマネジメント](#)」を参照

お取引先でのCSRの推進を支援

📍 CSR調達ガイドラインの策定と活用

不二製油グループは、調達活動におけるCSRの取り組みをさらに推進するため、2012年8月に「CSR調達ガイドライン」を策定しました。当ガイドラインは、サプライチェーンでのCSR実践という観点から、当社がお取引先に求める事項と、重要な関連法規についてまとめたものです。内容は不二製油CSRビジョン^{※1}・CSR活動方針^{※2}をもとにしており、「企業倫理・コンプライアンス」、「リスクマネジメント」、「適正な品質・価格・安定供給」、「環境への配慮」、「人権・労働安全衛生への配慮」、「情報セキュリティ」、「公正取引」、「社会貢献」の8項目からなります。2014年度には海外グループ会社とも共有していく予定です。

不二製油では、この内容をまずはお取引先に知ってもらおうと、2012年12月までに調達取引先を対象としたアンケートを実施しました。アンケートの内容は、CSRガイドラインの各要求事項をどの程度実践できているかを問うものとなっています。対象は原料部、資材部、技術・工務部、ロジステックス部の国内調達取引先342社と、原料部・資材部の海外調達取引先54社で、計396社から回答があり、約2割のお取引先が、事業のなかでのCSR実践に課題を抱えていることが明確になりました。

不二製油では、今後、お取引先の意見も参考にしながら、アンケートの内容を見直し、より実用的な情報収集手段としていきます。

※1 CSRビジョンについては「[CSRマネジメント](#)」を参照

※2 CSR活動方針については「[CSRマネジメント](#)」を参照

有識者とのダイアログを実施

2014年6月23日、大和総研・河口主席研究員と認定NPO法人ACE・白木事務局長をお招きし、当社の各事業部担当執行役員（事業本部油脂事業部長、同チョコレート事業部長）などを交えてステークホルダーダイアログを実施しました。



右から、河口真理子氏、白木朋子氏
左から、不二製油・広沢、佐野、信達、谷井、後藤

持続可能な調達に向けた取り組み

RSPO、フェアトレードなど、各種認証の意義や社会への貢献度について、現状を踏まえて本音での意見交換が行われました。認証の取得や認証品の使用の必要性を感じていますが、安定的な原料調達を将来も可能とするには、認証取得などにとどまらず、それを越えた何らかの「本気の取り組み」がサステナブル観点から必要との見解で一致し、具体的なオプションや実現に向けた課題、お客様や消費者の皆様への説明なども含め意見交換されました。

消費者の皆様と向き合う

エシカル[※]消費についての理解・関心が若年層を中心に広まりつつある実例を参加者で共有し、「あなたの選択は持続可能な社会づくりへの第一歩です」と消費者が問われる時代はすでに到来しており、さらにその傾向は深化してゆくとの有識者よりご意見をいただきました。

それを受けて、メーカー、流通事業者、NPO・NGOがどのような形で消費者と向き合うべきか、どう連携していけるかについて、種々の角度から具体的な意見交換が行われました。

※ フェアトレードなど社会的意義のある商品を選ぶ消費行動

企業の枠を超えた取り組み

持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて、企業とNPO・NGOとの連携、業界内の連携、メーカーと流通業界の連携などの必要性やそのメリットが話し合われたほか、実現に向けた課題について率直な意見も交換されました。

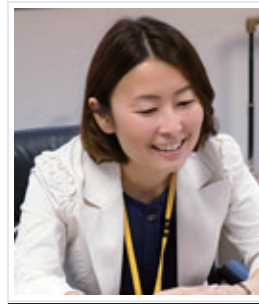
当社からは、過渡期であり、課題解決の見通しも不透明ですが、今後とも取り組みを進めていきたいとの意見が出、有識者からは協力していきたいとのご発言がありました。

有識者の方々



河川 真理子氏

株式会社大和総研 調査本部 主席
研究員。2013年には、当社
「CSRレポート2013」で清水社
長との対談を行った他、CSR推進
委員会にてエシカル消費等をテー
マに講演。



白木 朋子氏

認定NPO法人ACE事務局長。農産
物の生産現場で児童労働の撤廃に
取り組む同NPOで力カオ関係を担
当、製菓会社と協働したフェアト
レード・チョコレートの発売を実
現。

不二製油の参加者

執行役員 事業本部 油脂事業部長
広沢 達明

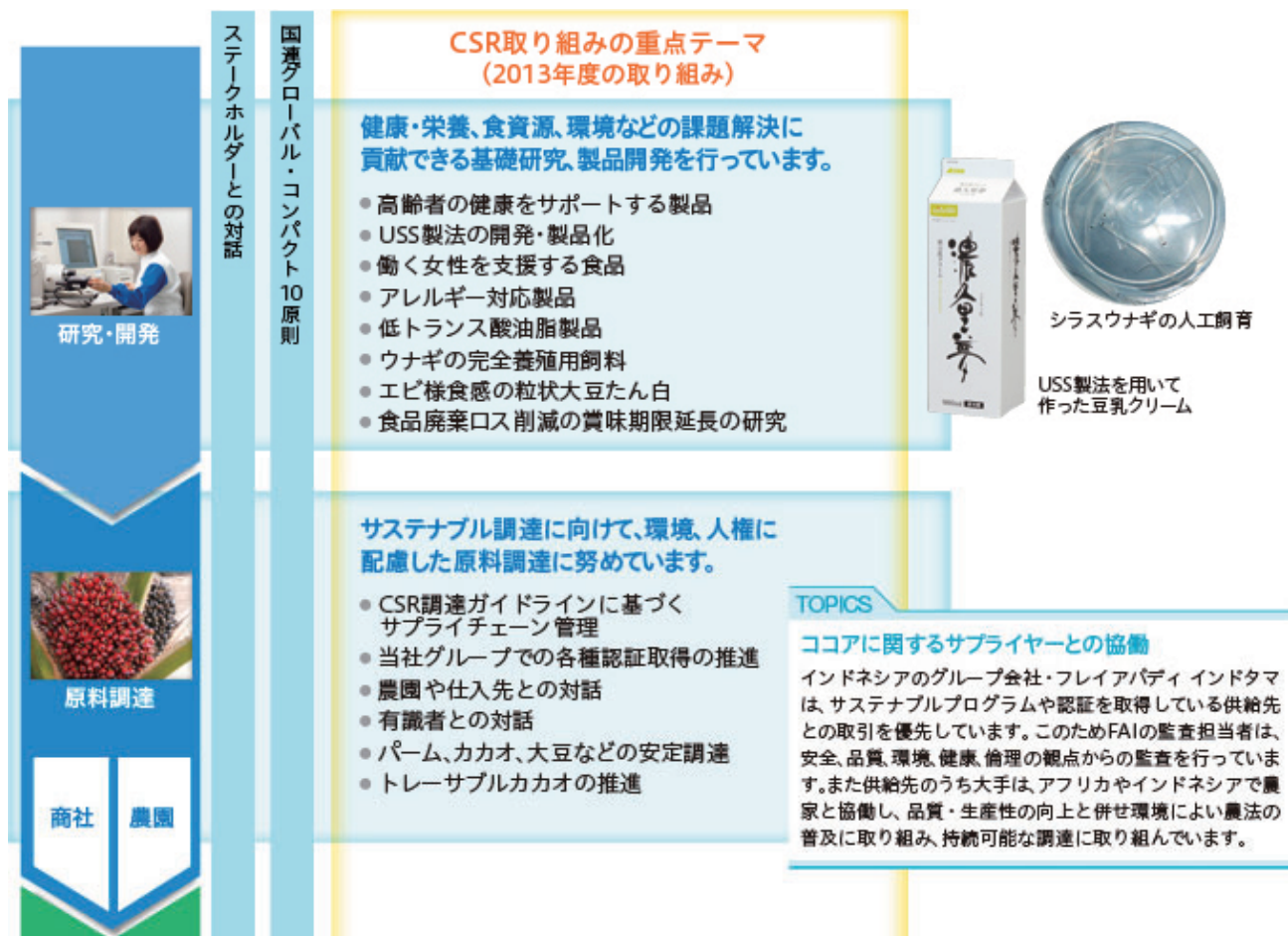
執行役員 事業本部 チョコレート事業部長
佐野 浩之

事業本部 原料部長
信達 等

事務局 経営企画部CSR グループ
谷井 俊夫、後藤 愛

サプライチェーンにおける不二製油グループのCSR活動

当社グループはサステナブル調達を重要課題と考えており、調達から生産、物流、提案営業に至るまで、サプライチェーンの構造改革に取り組み、総合的に管理しています。





製造



物流



顧客企業
・
消費者

「不二グループ環境ビジョン2020」に基づき、
高い目標を掲げて取り組んでいます。

- 安全・品質・環境会議の実施および
海外グループ会社への拡大
- 生産技術による省エネ活動
- 容器・包装エコの推進
- 廃棄物削減
- 輸送によるCO₂ 排出量削減



海外グループの
第1回安全・品質・環境会議



アイスコンデンス式
真空発生装置

高齢者や働く女性への支援など健康・栄養に関する
さまざまな普及活動を行っています。

- 高齢者の健康な食生活を支援するた
めのセミナー開催
- 働く女性を支援する新市場開拓に向
けたワーキングマザーチーム結成
- 健康・栄養、食資源に貢献できる製品
の課題解決型提案営業
- 大豆の普及、促進活動「まめプラスカ
フェ」を期間限定で運営



「高齢期の食事に関する
セミナー」を開催



まめプラスカフェ

持続的成長を支える体制

食の安全・安心・品質

不二製油グループでは、安全・品質・環境を最優先することを経営の前提に据え、1996年に品質方針を制定[※]し、各種認証取得に取り組んできました。さらに、品質方針を実践するうえで守るべき内容を具体化した「品質指針」を定め、安全・安心でお客様に満足いただける製品づくりに取り組んでいます。

※ 「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」として、2014年5月1日に改めて制定

私どもはお客様に、安全・安心で高品質な製品をお届けしています。また、日本は比較的安全な社会であると考えられていました。しかし、昨今、日本においても食品安全を揺るがす事件が起こっています。もちろん当社では従業員と会社がお互いに満足し、信頼し合っていると信じて疑いません。一方、社会の要請やお客様の要望で、食の安全を形で表す必要が出てきました。そのため当社では、フード・ディフェンスの観点から「FSSC22000」（食品安全マネジメントシステム）を導入します。欧米では、以前より「フード・テロ対策」が講じられており「FSSC22000」で一層食の安全を達成してまいります。



取締役常務執行役員 生産管理本部長
内山 哲也

不二製油グループの品質保証

基本的な考え方

不二製油では、安全・品質・環境を最優先することを経営の前提に据えて、1996年に品質方針を制定し、ISO9001の認証取得に取り組んできました。さらに、品質方針を実践するうえで守るべき内容を具体化した「品質指針」を定め、新入社員教育や品質内部監査などの機会を通じて各部門に展開しています。これらの方針・指針に基づき、安全・安心でお客様に満足いただける製品づくりに取り組んでいます。

不二製油の品質方針「顧客満足を実行しましょう」

【品質指針】

1. 質の高い提案営業と情報収集を進め、潜在的顧客ニーズの変化を捉え、グローバルに新市場の構築を行います。
2. 創造的でタイムリーな製品及び技術開発を行い、顧客の期待に応えます。
3. 国内外の法令やルールを共有化し、グループ全体で製品の安全・安心に取り組めます。
4. 製品造りに、品質と環境の調和を図ります。
5. 課題の本質に衆智を集め、問題の発生・再発を防止します。
6. ひとつひとつ真意の伝わるコミュニケーションを行います。

また、2014年5月に、グローバル経営推進の一環として、従来からの「不二製油グループ環境基本方針」に加えて、当社グループ全社で取り組むべき方針として、「安全衛生基本方針」とともに「品質基本方針」を策定しました。

※ 海外での安全品質環境会議については「[海外グループ安全・品質・環境会議の実施](#)」を参照

不二製油グループ

安全品質環境 基本方針



[クリックで拡大表示します。](#)

お客様視点による品質保証体制

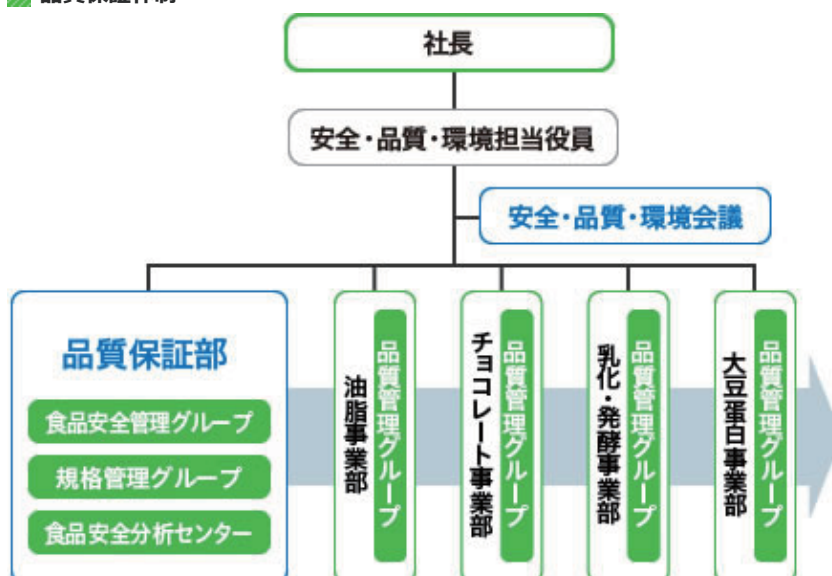
当社では、原料調達から生産・出荷までの各工程において、製品やその製造プロセスが当社の規格・基準をクリアしているかをチェックする「品質管理グループ」を各事業部に設けています。加えて、法令の遵守、および「お客様視点で高品質な製品であるか」を検証する独立組織として「品質保証部」を設置し、横断的に製品・製造プロセスを検証しています。

さらに、国内の自社工場や委託先には、原則毎年「品質インスペクション」を実施し、生産管理の状況などを監査しています。また月1度「安全・品質・環境会議」を開催し、関連部門が問題点や課題とその対策を報告し、情報を共有することで問題の再発防止に向けた横展開を図っています。

海外拠点では、国内同様、品質に関わる外部認証を取得するとともに、2年に1度「品質インスペクション」を実施して国内拠点と同等レベルの管理体制を保証しています。

2013年度は、自社および国内グループ会社33社、委託先35社、海外グループ会社6社で実施しました。

品質保証体制



安心・安全の確保に向けて

国際的品質マネジメント認証の活用

不二製油グループは、お客様に満足いただける、より信頼性の高い製品をお届けするために、品質や食品安全に関するマネジメントシステムの外部認証取得を推進しています。グローバル・スタンダードを常に念頭におき、活動の質を高めていきたいとの考えから、CSR関連の国際的なイニシアチブやマネジメントシステムを積極的に活用。第三者の知見に基づいて自社グループのCSR活動における内容、方針、体制などを構築、評価し、必要に応じて改善していきます。

国内グループでは全生産拠点での品質マネジメントシステムISO9001の認証取得を進め、2014年度には最後に残った拠点も認証を取得しました。海外グループではISO9001の他にHACCP認証や、2005年に発行された食品安全マネジメントシステムISO22000の取得が進んでいます。

さらに近年、フード・ディフェンスの必要性が認識されるようになってきたことから、2012年度からは国内外の「品質インスペクション」の中で、GFSI承認規格の適合レベルを確認し、海外グループで先行して認証取得を進めています。

フード・ディフェンス対応策およびFSSC22000認証取得

2008年の冷凍餃子事件の発生以降、フード・ディフェンスについては状況を注視してきましたが、2013年末に国内で発生した意図的混入事件を受け、大きく状況が変化しました。当社も取り組み強化の必要性を強く認識し、すでに実施していた薬品関係に加え、潤滑油等の施錠管理、出入口の施錠管理強化などに着手したほか、ユニフォームポケットを無くす方針を決め、既存のものについてはポケットの縫い付けを行うこととしました。また、生産エリアの重点ポイントについては監視カメラの設置を検討しています。

さらに、HACCP管理の強化によって、異物混入や微生物発生抑制とともに、フード・ディフェンスに対する目に見える取り組みとして、GFSI承認規格の1つ食品安全マネジメントシステムFSSC22000の認証取得に向け活動を開始しています。まずは、冷凍食品関連の各工場を優先して認証取得し、その後全工場に認証拡大する計画です。

FSSC 22000認証取得状況

取得拠点	
グループ会社	
海外	フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）
	フジオイル（シンガポール）
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）
	フレイアバディ インドタマ（インドネシア）
	不二製油（張家港）（中国）

GFSI承認規格について

GFSIは2000年に設立された非営利組織で、国際的な食品安全の確保・向上を目的に、同団体の求める水準を指針として公表し、世界各国の著名な食品安全マネジメントシステム規格を比較検討して、適合する規格を承認しています。ここで示された認証規格がGFSI承認規格であり、特にヨーロッパで高い信頼を得ています。

これらの規格の要求事項を踏まえて各拠点の品質マネジメント体制を食品安全の面からも監査し、必要なら改善を実施することで、国を超えてさまざまなお客様の要求に応えられる体制の早期実現を目指します。

GFSI承認規格（2013年9月現在）

名称	概要
(1) BRC GLOBAL STANDARD FOR FOOD SAFETY ISSUE6	英国小売業協会（British Retail Consortium）が開発・運用している食品安全のための規格。法令順守なども要求事項に含む
(2) CANADA GAP	カナダ政府が定める、農産物の安全を保証するための管理基準
(3) FSSC22000	食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO 22000の要求事項に、食品製造に関する衛生管理基準を盛り込んだマネジメントシステム。オランダ・食品安全認証財団（The Foundation for Food Safety Certification）による
(4) Global Aquaculture Alliance	持続可能な事業を行っている事業者を世界水産養殖同盟（Global Aquaculture Alliance）が認証するもの
(5) Global G.A.P	欧州小売業組合（EUREP）による、農産物生産における安全管理に関する規格
(6) Global Red Meat Standard	食肉の安全管理に関する国際規格
(7) International Food Standard Version6	ドイツ・フランスの小売業者が販売する食品について、その納入業者の生産管理の状況が、関連する安全性規格・品質規格・法的規格にかなっていることを認証する規格
(8) SQF	HACCPの考え方に則った、食品の安全・品質の確保に関するマネジメントシステムの国際規格

Halal（ハラール）、Kosher（コーシャ）対応

グローバル展開を目指す当社グループは、より競争力のある会社となるため、社会環境の変化に敏感に対応しています。世界中にはさまざまな人種と宗教をもつ人々がいる中、企業にはその人々が大切にしている食生活の文化や多様性に十分配慮した対応が求められます。

当社グループでは、イスラム教やユダヤ教の食事規則に順じた原材料や食品製造を証明するHalal認証、Kosher認証の取得を推進しており、アメリカ、中国、インドネシアなどで取得を進めています。

今後もさまざまな宗教の人々に安全・健康でおいしい食品を提供できるような体制を整えていきます。

インドネシアにおける対応

当社グループのフレイアバディ インドタマは、文化と宗教の多様性に対応するため、原料のすべてをHalal認証品としています。

人口の大半がイスラム教徒であり、Halal認証の取得は市場で受け入れていただくため必須となります。2011年以降工場全体で、ハラール保証システム（Sistem Jaminan HALAL）認証をA級評価で取得しており、2014年も取得に向けて取り組みます。

また、ユダヤ教の人々のチョコレートニーズに対応するため、全原料でのKosher認証取得に向けて、サプライヤーの協力を得て、2013年10月から準備を進めています。

Halal認証取得状況

Halal認証を受けた取扱商品がある会社	
グループ会社	
海外	フジオイル（シンガポール）
	ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）
	フレイアバディ インドタマ（インドネシア）
	不二製油（張家港）（中国）
	吉林不二蛋白（中国）
	天津不二蛋白（中国）
	フジ ベジタブル オイル（アメリカ）
	フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）
	ムシム マス-フジ（インドネシア）
	フジオイル（タイランド）

注）個別の商品についてHalal認証の有無をご確認されたい場合は、各グループ会社にお問い合わせください

Kosher認証取得状況

Kosher認証を受けた取扱商品がある会社	
グループ会社	
海外	フジ ベジタブル オイル（アメリカ）
	フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）
	フジオイル（シンガポール）
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）
	フジオイル（タイランド）
	吉林不二蛋白（中国）
	天津不二蛋白（中国）
	不二製油（張家港）（中国）
	ムシム マス-フジ（インドネシア）

注）個別の商品についてKosher認証の有無をご確認されたい場合は、各グループ会社にお問い合わせください

HACCEP、ISO認証などの取得・適合

HACCP、ISO22000認証取得状況

取得拠点	
グループ会社	
海外	ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）
	フジオイル（シンガポール）
	フレイアバディ インドタマ（インドネシア）
	フジオイル（タイランド）
	正義股份（中国）
	フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）
	ムシム マス-フジ（インドネシア）
	不二製油（張家港）（中国）
	吉林不二蛋白（中国）
	山東龍藤不二食品（中国）
	上海旭洋綠色食品（中国）

ISO9001認証取得状況

取得拠点	
不二製油（株）	
全事業部・全部門で取得済	
グループ会社	
国内	フジ フレッシュフーズ（株）
	トーラク（株）
	オーム乳業（株）
	（株）エフアンドエフ
海外	フジオイル（シンガポール）
	パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）
	フレイアバディ インドタマ（インドネシア）
	ムシム マス-フジ（インドネシア）
	天津不二蛋白（中国）
	山東龍藤不二食品（中国）
	吉林不二蛋白（中国）

TOPICS

りんくう工場が大阪府知事商品衛生優良施設表彰を受賞

不二製油りんくう工場は保健衛生の向上に尽力した功績が顕著であると評価され、2013年11月、「食品衛生関係優良施設に対する大阪府知事表彰」を受賞しました。りんくう工場は、バラエティーに富んだカラーチョコレートを製造しており、品種切り替え作業が多く、ラインを組むハンドリング作業が多いため、衛生管理には特に気を使っています。

今後も安全・安心なもののづくりを通して、さらなる社会的信頼を得られるよう、小ロット多種多様のチョコレート製造に取り組んでいきます。

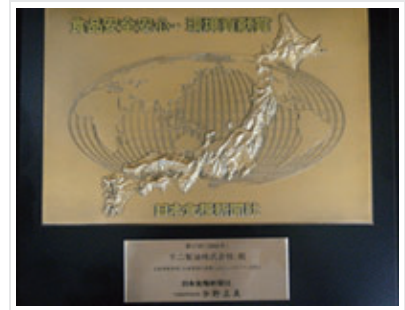


独自の品質情報管理システムの構築

不二製油では2008年に、トレーサビリティシステム（流通経路情報把握システム）と品質情報管理システムの2つの電子情報管理システムを連携させ、製品の品質情報を一元管理する独自のシステムを確立しました。本システムを製品安全の確保に活用するとともに、お客様の情報開示要求への迅速・正確な対応に役立てています。

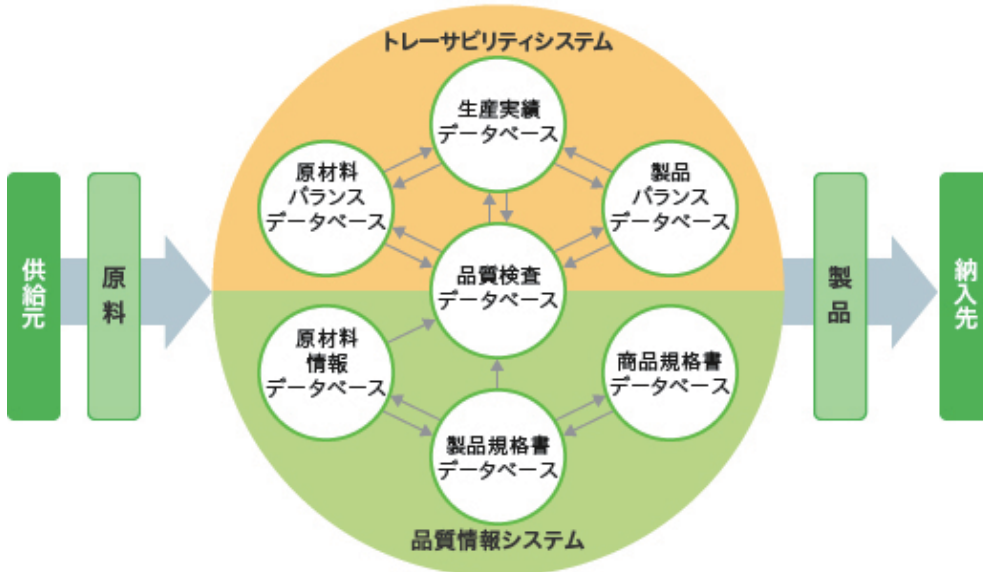
システムでは、製品製造の各プロセスごとに、どのような経路で調達された何の原料を使用しているかを確認することができます。ある製品の原材料を素早く確認できるというだけでなく、同じ原材料を使用した他の製品を特定することも容易であるため、原料に由来する品質の不備などがあった場合も、関連する製品を迅速に絞り込んで回収などの対応を実施できます。

システムの概要



高度なトレーサビリティシステムを確立したことが評価され、2008年に日本食糧新聞社「食品安全安心・環境貢献賞」を受賞しています。

【不二製油 品質保証システムの概要】



【特長】

1つの情報から他の関連情報が迅速に正確に得られる。
 (例えば) 特定ロットの製品の
 ①使用原料 ②生産状況 ③分析データ ④在庫データ ⑤出荷先データ
 が得られる。(上記データは各々相互に検索できる。)

品質保証業務が迅速に確実に効率よく果たせる。

- ・品質保証書、商品規格書等の発行等
- ・品質事故等発生時の問題ロットの絞り込み、問題製品納入先の割り出し等

原材料分析の実施

食品安全センターの設置

不二製油では、製品に使用する原材料の安全・安心を確保するため、専門部署「食品安全分析センター」を設置して原材料の分析を行っています。

同センターでは、最新鋭の装置と高度な技術を駆使して高精度な分析・検出を行い、原材料のアレルギー物質や病原性微生物、残留農薬などの含有の有無を調査するほか、原材料が遺伝子組換え作物でないかの確認なども実施しています。特に海外から購入した主要原材料については、十分に安全性を確認し、品質が保証されたものを使用しています。

想定外物質分析技術の構築

📍 正確・迅速な検査のための技術開発

当社の品質保証部では、製品の原材料に含まれる危害物質の分析に特に注力し、より正確・迅速な検査を行うための技術開発に取り組んでいます。すでに確立した微生物種同定技術や、残留農薬分析技術、微量金属分析技術に加え、2014年度からは水銀分析装置を導入して技術確立を進めている他、微生物種同定のさらなる迅速化のため、次世代シーケンサーによる同定法の確立を進めています。

📍 原材料の品質リスクアセスメント

2012年度から進めてきた主要原材料の大豆とカカオの残留農薬、微量重金属、および付着微生物種同定については、2014年4月でおおむね評価を終了し、いずれの原料も基準値超過の可能性は十分低く、また、病原性微生物等の付着は認められず、大きな品質リスクはないことを確認できました。今後は頻度を下げた定期的モニタリングとして引き続き検査を行っていきます。

また、新たに技術確立を予定している水銀分析でもリスク評価を行う予定です。



分析の様子

カカオ原料の残留農薬・重金属分析および視察の実施

食品は安全・安心が最も重要な品質です。このため、チョコレート主原料のカカオ豆についても当社食品安全分析センターで残留農薬、重金属の分析を行っています。さらに安全・安心を追求するため、カカオ農園を訪問し、栽培方法、土壌、発酵、乾燥方法などを確認して、カカオ豆の安全・安心とおいしさの品質を確保しています。



カカオ農園視察の様子

製品情報の提供

消費者向け相談窓口の設置

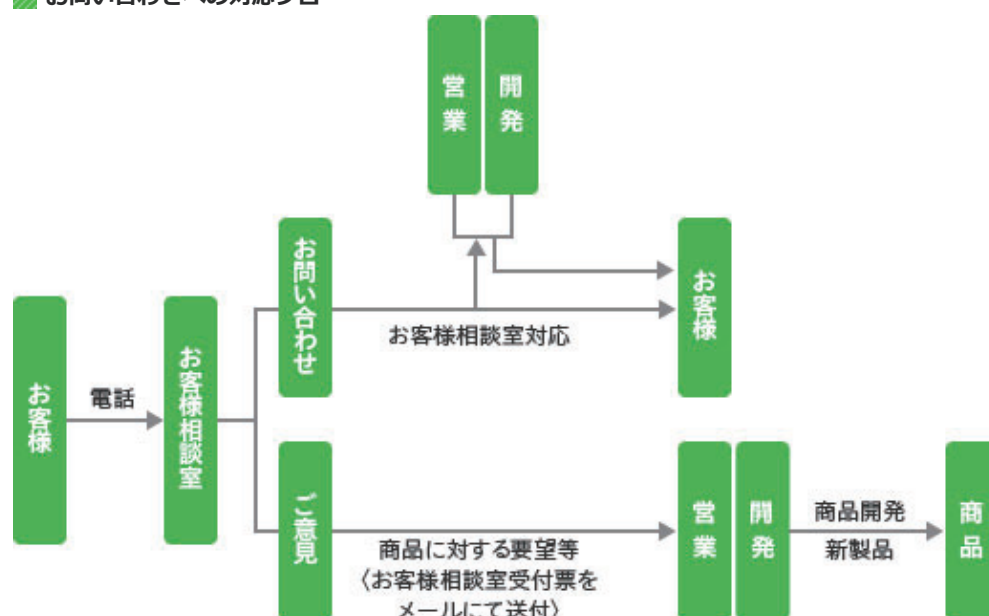
不二製油では、家庭用商品の消費者の方からのお問い合わせに対応する窓口として「お客様相談室」を設置し、電話（フリーダイヤル）でのご連絡を受け付けています。

お問い合わせには誠実に、また速やかに対応することを基本としており、内容によっては、営業・生産・品質保証・開発部門の担当者が直接説明にあたっています。いただいたご意見は関連部門に速やかに伝達し、製品・サービスの改良に活かしています。

なお、こうした対応品質の向上を図るため、苦情対応マネジメントシステムの国際規格であるISO10002の考え方を取り入れています。

近年ではお問い合わせ内容が多様化しつつあることから、より迅速・的確な対応ができるよう、体制を見直していきます。

■ お問い合わせへの対応フロー



適正で充実した製品表示

不二製油は、法に則った正しい製品表示の徹底に努めています。

食品衛生法など、関連する法令については、品質保証部が毎日情報収集し、変化があれば、毎日配信している「食品安全情報」などを通じて関係者に伝えることで、迅速に最新情報を表示に反映しています。また、製品表示の内容に法令に反していたり間違っている点がないか、実際に表示する前に開発部門、生産部門、品質保証部などの担当者がチェックするなど、管理を徹底しています。

これに加えて、お客様が求める情報は、商品規格書や当社ホームページなどで確実に開示するようにしています。

持続的成長を支える体制

地域・社会との共生

不二製油の社会貢献

不二製油グループは、CSRビジョン※の中で、「食」「健康」「豊かさ」をテーマとした社会貢献活動をグローバルに展開していくことを定めています。この方針に基づき、不二製油と国内グループ会社、海外グループ会社のそれぞれが、社会に貢献するために自社に何ができるか考え、取り組みを実施しています。

※ CSRビジョンについては「[CSRマネジメント](#)」を参照

堺市の小学校で理科実験授業を実施

当社では持続的な成長を目指す中で、地域社会との共生を大切にしており、その一環として理科実験授業を行っています。

2013年度はNPO法人テクノメイトコープの「創造性豊かな理科好き子供育成事業」に賛同し、当社開発部員が堺市の小学校で理科実験授業を10校計30回実施しました。

水と油でも工夫することで混ぜることができる「乳化技術」の実験を通じて、クリームやマヨネーズなどの身近な食品の製造にも科学技術が使われていることを体感してもらい、科学技術の面白さや重要さを紹介しました。

この乳化技術を用いた製品や、材料となる油脂の生産を行う当社が、地域や世界中の人々の食と密接に関係していることを知っていただく良い機会となりました。2014年度も引き続き実施し、地域社会との共生を目指していきます。



当社開発部員が授業を実施している様子

フィリピンにおける台風30号被害に対する支援

2013年11月フィリピンを襲った台風30号により、当社グループのニューレイテ エディブル オイル（NLM）も多大な被害を受けました。地域貢献の一環として会社および従業員寄付金、多方面のご厚意を含む計約1,000万円を被災地へ寄付しました。

支援金は、地元と協議し、タナワンのサンロケ（NLMがある街）にて、保育所併設の公民館への修繕および改築費に使用されることとなりました。この施設は緊急時の避難所としても使用される予定です。



公民館 完成イメージ図

モザンビーク・ナカラ回廊農業開発支援プロジェクトへの参画

不二製油は、(独法)国際協力機構(JICA)と民間企業が共同で実施しているアフリカ・モザンビークでの農業開発支援プログラム「Pro SAVANA」に2011年から参画しています。このプロジェクトは、日本・ブラジル・モザンビークの三角協力のもと、ナカラ回廊地域の貧困小規模農家を対象とした、農業の発展をもとに経済成長を支援するものです。

2014年1月、モザンビーク政府との投資フォーラムが開催され、安倍首相をはじめとする日本政府代表と企業団が現地入り。インフラの整備やエネルギー供給体制または貿易に必要な設備投資など果敢な取り決めなど行われました。同時に和食のユネスコ無形文化遺産登録に合わせ、試食展示会なども行われました。不二製油からは海老原善隆会長が参席し、積極的に現地視察など行い理解を深めています。

また、2012年から毎年続けている現地視察では、日本の大豆食品に使うことができる大豆種の選定と輸出入の準備を、他社と協力して着々と進めてきています。大豆を日本企業が購入することで、将来、モザンビークの農業支援につながることを期待しています。



ナカラ回廊地域の風景



投資フォーラムの様子



ナカラ回廊地域。モザンビーク北部のナカラ港から隣国マラウイまでをつなぐ鉄道・自動車道(ナカラ回廊)沿いの5州からなる

タイの大豆に関する研究アワード、2度目の表彰式

不二製油は2012年、タイにおいて大豆に関する研究アワード「TDA Soybean Study Award」を設立しました。TDAは「Thai Dietetic Association(タイ栄養士会)」の略で、タイの栄養士全員(約1,800人)が所属しています。

同国は東南アジアの中でも、栄養学の専門教育や栄養士養成が進んでおり、タイ栄養士会も、東南アジアの栄養学を牽引していくという自負と気概にあふれています。また、豆乳の喫食文化も長く、健康志向や高齢化も年々進んでいる近年、当社は大豆レサンスを掲げる企業として、本アワードを通じてタイ人によるタイ人のための新しい大豆加工食品の提案や普及に貢献することを目指しています。

アワード設立後、2度目の出席となった2014年4月のタイ栄養士会年次総会(於・バンコク)では、2013年に応募があった研究54件うち12件が表彰されました。うち3件の臨床研究は国際的な栄養学会誌に出稿予定です。2014年度も多数の応募が期待されます。



タイ栄養士会2013年度表彰式

不二たん白質研究振興財団による研究助成

不二製油は、大豆たん白質に関する学術研究振興を支援することを目的に、1979年、「大豆たん白質栄養研究会」を設立し、その事業の発展に貢献しています。同会は長年にわたって多くの研究者への助成を続け、1997年には文部省所管の財団法人、さらに2012年4月に公益財団法人として内閣府の認定を受けています。

2013年度は、34件の研究課題に対して助成金を交付しました。また、12月には2014年度の助成課題を公募し、応募100件から36件を採択しました。

財団は、例年、助成した研究に携わる研究者を招いて研究成果に関する報告会を開催するほか、種々の分野でご活躍の講師を招いて大豆・大豆たん白質をテーマとした一般向け公開講演会を実施するなど、大豆たん白質研究の活性化を促すとともにその成果を広める取り組みにも注力しています。

2013年度は5月末に研究報告会を実施し、助成研究の成果報告と学術的論議が活発に行われ、また10月に福岡市で開催された公開講演会では当初定員を上回る240名を超える聴講者にご来場いただきました。

さらに、2014年度5月には、これまで関係者に限っていた研究報告会を研究助成やその広報に関連する方々のご出席が可能な形に改め、初めて官公庁、独立行政法人およびマスコミ関係者にもご来場いただきました。

※ これまでの助成課題については「[不二たん白質研究振興財団ホームページ](#)」を参照



公開講演会の様子

泉佐野食品コンビナート協会主催「FESTA2013」に参画

当社では地域貢献活動の一環として、本社のある泉佐野市の食品コンビナート協会主催イベント「FESTA2013」に参加しました。工場のバスツアー、カカオ豆やパーム油などの原料展示のほか、チョコレートができるまでの説明を行うなど、地域住民の方々に当社の理解を深めていただくことができました。



「FESTA2013」の様子

持続的成長を支える体制

コーポレート・ガバナンス

不二製油グループは、透明性の高い健全な経営を目指して、事業活動の基本となるコーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組み、CSR活動の基盤を、より強固なものとしていきます。同時に、持続可能な事業活動の推進のため、コンプライアンスとリスクマネジメントの強化を図っています。

当社グループはコーポレート・ガバナンスの強化を経営上の重要な課題の1つと考え取り組んでいます。2013年度はグローバル経営推進の加速として、「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」の策定をはじめとするグローバルでのコンプライアンス強化やリスク一元管理の推進に努めました。2014年度は「ルネサンス不二2016」を遂行すべく、さらなる基盤強化とリスク管理の徹底によるグローバルガバナンス体制の整備を行ってまいります。

取締役常務執行役員 グローバル戦略本部長
久野 貢



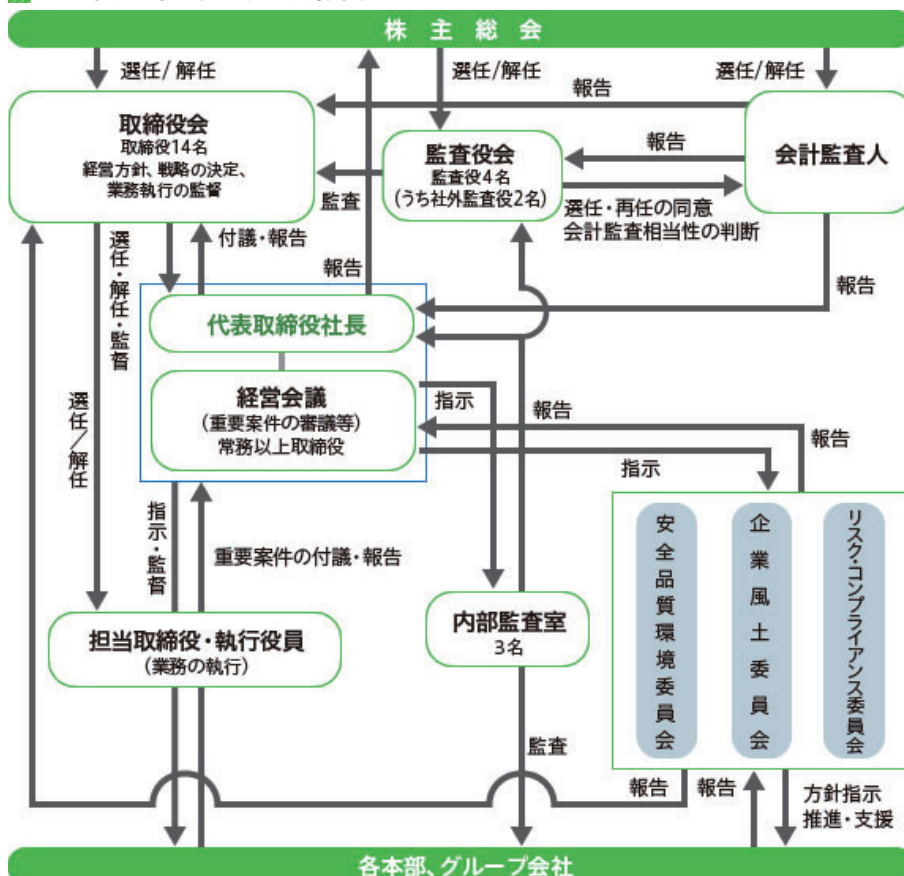
基本的な考え方

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

不二製油では、透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、株主価値を継続的に高めることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。このため、経営の効率化や意思決定の迅速化、タイムリーな情報開示、組織体制の整備、コンプライアンスの強化などに取り組んでいます。

※ 情報開示については「株主・投資家とのコミュニケーション」を参照

コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会

取締役会は経営方針や戦略について協議・決定し、組織全体の業務執行を監督する役割を担っています。

コーポレート・ガバナンスのさらなる信頼性向上に向けて、2013年度から「独立社外取締役^{※1}」の仕組みを導入しました。2013年5月の取締役会で独立性基準^{※2}について決議し、これに基づいて、同年6月の定時株主総会で承認・可決された社外取締役1名を、証券取引所の規定に基づく独立役員として指定しています。

※1 独立社外取締役：一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役

※2 独立性基準：独立社外取締役の選任基準

経営会議

業務執行機関として代表取締役の下に設置しています。

監査役会

監査役会は監査方針や監査計画を協議決定し、監査に関する重要事項などを報告・決議・決定します。

監査役の任期は、前任者の在任期間にかかわらず、就任後4年間としています。日本の多くの会社では監査役の任期を「前任者又は他の在任取締役の任期の残存期間と同一とする」ものとして任期計算が複雑になる事態を避けていますが、会社法が定める4年間の任期を堅持することが、いっそうの監査役機能の強化、ひいてはコーポレート・ガバナンスの強化につながる と判断したものです。これにあたって、2012年6月の定時株主総会で定款の任期調整条項の撤廃を提議し、承認・可決されました。

安全品質環境委員会

経営の前提「安全・品質・環境を最優先する」を実践し、グループ経営の基盤を確固たるものとするための具申を社長または経営会議および取締役会に行います。

企業風土委員会

企業風土の醸成および推進を通じた内部統制における統制環境の基盤づくりに寄与する各種活動を行い、結果を社長または経営会議および取締役会に報告します。

リスク・コンプライアンス委員会

社長および経営会議の諮問機関として、これまで互いに独立した委員会であった「リスクマネジメント委員会」と「コンプライアンス委員会」を統合し「リスク・コンプライアンス委員会」とし、リスクマネジメントおよびコンプライアンスについて包括的な取り組みを行うこととします。「リスク・コンプライアンス委員会」は、定期的にリスクおよびコンプライアンスについてそれぞれレビューを行い、結果を社長または経営会議および取締役会に報告します。

※ 詳しくは以下の資料を参照下さい。

 [有価証券報告書（PDF：344KB）](#) 

監査役による経営の監視

不二製油では、監査役が以下の業務にあたることで、経営監視機能を確保しています。

- 取締役会のほか、経営会議、各委員会など社内の重要会議に出席（常時）
- 代表取締役と定期的に会合（原則月1回）
 - ・・・経営方針や会社に対処すべき課題・リスク、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題などについて意見を交換
- 取締役とは年1回以上、執行役員および事業部門長、グループ会社代表者とは適宜会合
 - ・・・取締役、執行役員から職務の執行状況や、内部統制の構築・運用状況についての報告を受け、意見を表明
- 内部監査室と定期的に会合（原則月1回）
 - ・・・内部監査室から監査計画・内容について報告を受けるほか、内部監査室・会計監査人と連携
- グループ会社の監査役との連絡会も開催し、情報交換に努める
- 不二製油の主要な事業所・工場、子会社への業務監査・会計監査・内部統制監査を実施（随時）
 - ・・・2013年度は国内23カ所、海外3カ所を監査し、結果に応じて適宜対応

事業のグローバル展開の加速を受けて、海外の拠点を対象としての監査の機会が増えています。効率よく監査を実施していくため、今後は海外事業所との連絡を密にし、海外で起用している会計監査人とも協力して監査を実施していきます。

社外取締役メッセージ

社外取締役に就任して1年が過ぎました。私が加わったのを機に、新年度から取締役会の議題に変化が生じています。従来は部門ごとの業務報告に時間を割いていましたが、いまは月ごとにテーマを定め、議論をするようになっていきます。例えば、不二製油のグローバル化や、それにとみなう人材育成のあり方などが、テーマの一例です。それまで報告を聴くだけだった方々が、自分の視点をもって意見の交換に参加するようになり、静かな改革が始まったと私は高く評価しています。

社長、会長とは定期的に歓談する場を与えていただいております、インフォーマルなコミュニケーションの積み重ねが新しい中期経営計画「ルネサンス不二 2016」にも反映されました。これまで不二製油が築き上げてきた技術の体系は、もっともっと世界の人々に評価していただく余地があるはずと私は確信しており、余地を領地に変え、その成果を業績に織り込んでいくためには、多様性に富む海外市場にアプローチする方法を変えるべきと見ています。小手先の徒労を排除するには、まず社内体制を再整備して条件を整えるところから始めないといけません。ここでも静かな改革が口火を切りました。

社外に籍を置く私にできることなど高々知れていますが、幸いなことに、不二製油は創業の精神にも、実直で有能な社員にも恵まれています。高いポテンシャルを解放する鍵を、2年目も見据えていきたいと思います。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
三品 和広

持続的成長を支える体制

コンプライアンス

基本的な考え方

不二製油グループは、食の素材を提供するメーカーとして、毎日さまざまなお客様に商品・サービスをお届けしています。こうした日々の業務のなかで、法令、定款、社内規定を遵守するとともに、一人ひとりが高い倫理観を持って行動するよう心がけることが、株主、取引先、お客様をはじめとするステークホルダーの期待に応えることにつながると考えています。

この方針を実践するうえでの指針として、「不二製油グループ行動規範」をグループ全体に浸透させています。

2014年度は不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン（グリーンブック）を策定し、順次、各国語翻訳版をグループ各社への紹介を開始しています。贈収賄防止基本方針のならびに公務員に対する便益内規の整備を計画する等、グローバルコンプライアンスプログラムの整備に向けて歩みを進めています。

グローバル行動規範の策定と発信

不二製油グループでは、2003年に「不二製油グループ行動規範」を策定し、その中で、すべてのコンプライアンス活動の基本となる三原則を定めました。その後9年を経て、経営の一層のグローバル化が進み、グループ全体でコンプライアンスに対する考え方や行動規範を共有すべき段階に達したと考えたことから、2011年度に行動規範を改訂。三原則はそのままに、グローバル経営やサステナブル経営を掲げる不二製油にふさわしい行動規範となるよう、付帯する説明文を見直しました。

本行動規範を、不二製油グループ各社で働く従業員一人ひとりが共通の価値観として共有できるよう、ポスターの配付や研修の実施などを通して浸透を図っています。これによって、従業員のコンプライアンスに対する意識を高めるとともに、単にルールを守るだけでなく、社会の要請や期待に応えることの大切さを意識しながら日々の業務に従事できることを目指しています。

2013年7月には、改訂版行動規範を8カ国語に翻訳し、ポスターとして国内および海外のすべてのグループ会社に配付しました。さらに2013年度中には、さまざまなビジネスシーンで発生するコンプライアンス上の問題を想定し、その対処の方針を定めた「ビジネス行動ガイドライン」を策定する予定です。同ガイドラインについては、日本語版に加え、英語版や中国語版の作成から始まり、段階的に多言語に対応していく予定です。これをイントラネットへの掲示やメールによる配信、グループ内での各種研修の実施などを通じて共有する方針です。

各国語に対応したグローバル行動規範（三原則）

日本語	英語	中国語	マレー語
行動規範 基本三原則	Three Principles of the Code of Conduct	行为规范3原则	Tiga Prinsip Tatakelakuan
1. ルールを守ります。 2. 正直に行動します。 3. 公正に行います。	1. Follow the rules. 2. Act honestly. 3. Act fairly.	1. 遵守规则 2. 行为正直 3. 行为公正	1. Patuhi peraturan. 2. Bertindak dengan jujur. 3. Bertindak dengan adil.
インドネシア語	タイ語	ポルトガル語	オランダ語
Tiga Prinsip Tata Tingkah laku	จรรยาบรรณธุรกิจ หลักพื้นฐาน 3 ประการ	Três Princípios do Código de Conduta	De Drie Principes van de Gedragcode
1. Taati peraturan 2. Bertindaklah dengan jujur 3. Bertindaklah dengan adil	1. ปฏิบัติตามกฎหมาย 2. ทำหน้าที่อย่างสุจริต 3. ทำหน้าที่อย่างเป็นธรรม	1. Seguir as regras. 2. Agir honestamente. 3. Agir de maneira justa.	1. Leef de regels na. 2. Wees eerlijk 3. Handel rechtvaardig

インドネシアのグループ会社では行動規範に従業員・取引先へ展開

📍 従業員への周知徹底

当社グループのインドネシアにあるフレイアバディ インドタマ（FAI）は、2011年度には全従業員に行動規範の徹底を促していましたが、2013年度には、Freyoというキャラクターを用いた「FREY行動規範」を新たに制定しました。この新規規範は当社の行動規範をFAIの既存の行動規範と組み合わせたもので、キャラクターを用いて3つの原則を表現しています。中でも基本となるのは「正直」です。これは腐敗防止を目的としており、2014年度も引き続き贈答や接待、秘密保持、利益相反に関するルールの徹底などに取り組めます。



📍 全サプライヤーと「行動規範」を共有

FAIは、すべてのサプライヤーに対して法令遵守を勧奨しており、中でも腐敗、反競争行為、縁故主義の防止および労働条件の適正化に力を入れています。

行動規範については、従業員に対する安全で健康的な職場の提供、環境の保護、倫理規程の策定を求めている。原料・包材の業者に対しては、食品の安全に関する基準の策定・実施も求めています。また、サプライチェーンを含めた公正な事業の推進にも取り組んでいます。全サプライヤーに「サプライヤー行動規範」を送付し、経営者のコミットメントをいただき、FAIの理念や社会課題を共有しています。

コンプライアンス推進体制

専門の委員会を設置し、体制を整備

不二製油では、コンプライアンスの推進組織として「リスク・コンプライアンス委員会」を設置しています。本委員会が、「不二製油グループ行動規範」に基づいてグループ全体の行動規範に関する重要な事項を審議し、社長・取締役会に具申することで、法令遵守の徹底および不二製油グループ行動規範の浸透を図っています。委員会の活動内容は、定期的に社長および経営会議に報告されます。

このほか、四半期に1度「コンプライアンス推進委員会」を開催しています。本委員会はコンプライアンス委員会の下部組織として、社内にコンプライアンス違反に該当する事例がないか確認するとともに、違反リスクの洗い出しを行います。違反が発生した場合には、その改善策の策定ならびに実施状況報告を行います。

コンプライアンス教育の実施

不二製油では、コンプライアンス研修を不二製油の各部門と国内外グループ会社を対象に毎年実施しています。これらの研修は、適宜テーマを選定の上、階層ごと、部門ごとに行っており、2012年度は計20回の実施で約400名が受講しました。

また、弁護士などの外部講師による勉強会も毎年実施しています。これは、業務に密接に関わる法令や法律について学習するもので、コンプライアンス、行動規範、情報管理、不正競争防止法、契約法務、与信管理などテーマは多岐にわたります。関連部署から都度参加者を募集しており、2012年度は約350名が参加しました。

2014年度は、こうした施策に加えて、社内報を通じた定期的な情報発信など、新たな施策も実施していく予定です。

内部通報窓口の設置

不二製油では、「内部通報規定」を策定し、各種法令や行動規範などに違反するような行為に関して相談・通報を受け付ける窓口を社内外に設けています。

社内窓口は人事総務本部、社外窓口は外部の弁護士事務所が担当しており、電話やメールを受け付けています。受けつけた相談・通報内容については、通報者のプライバシー保護に配慮したうえで、コンプライアンス委員会が十分な調査を行い、適切に措置しています。この窓口は、不二製油本体の従業員のみならず、国内グループ会社の従業員も利用することができます。

これらの窓口については、イントラネットや社内ポスターを通じてグループ全体に周知しているほか、不二製油では年1回の部門研修で周知するようにしています。

2013年度は3件の通報がありましたが、重大な法令違反はなく、いずれも適切に措置しました。内容はパワーハラスメントの疑いなどについての相談が多く、上司と部下とのコミュニケーション不足に起因する事例が散見されました。当事者には窓口から連絡して対応し、当事者同士での解決を図る必要がある場合には、通報窓口がその仲介や調整などを行いました。

なお、海外グループ会社向けにも外国語対応の内部通報窓口を2014年度中に設置する方向で準備を進めています。

■ 通報・相談件数（件）

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
7	6	2	4	3

公平・公正な取引の実践

不二製油グループでは、「不二製油グループ行動規範」のもと、各国・地域の関連法規を遵守し、「調達」、「販売」の両面で公平・公正な取引を追求しています。

原料や資材の調達については、「購買基本方針」に「公平・公正な取引を行うこと、適正な価格で調達すること」を明記しています。この実践に向けて、下請法や独占禁止法といった取引関連法規について従業員に知識の浸透を図っています。また、製品の販売については、品質表示や広告・マーケティングの内容が法規制に適合しているか、開発、生産、品質保証の各関連部署が審査する体制を構築しています。

不二製油グループのお取引先に対しては、これらの内容を「CSRガイドライン」に明記し、遵守していただくよう浸透を図っています。

※ 調達、取引先に関する取り組みについては「[サステナブル調達](#)」を参照

※ 販売に関する取り組みについては「[食の安全・安心・品質](#)」を参照

「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」を策定、2014年度から適用

近年、贈収賄・腐敗行為による法規制が国際的に強化され、摘発が厳格化しています。当社ではグループ全体の取り組みとして、「不二製油グループ行動規範」の周知徹底を図り、法令遵守に加えステークホルダーの期待や要請に応え、企業市民として社会倫理に則った公正・透明な企業活動を実践するために、贈賄行為を禁止する姿勢を示しています。

また、事業のグローバル化の進展を踏まえ、2013年度より、「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」を2014年度上期内に施行します。2014年度下期には、上述の方針に基づき内規も整備し、グループ全体へ展開していきます。

中国グループ会社では行動指針を提示し、ミーティングでの啓発を地道に継続

中国では政府が率先垂範し、贈収賄防止に努めています。公正な企業活動は当然であり、日本人および現地スタッフを問わず、一人ひとりが当社グループの従業員であることを自覚し、国連グローバルコンパクトなどの実践につなげることが肝要です。吉林不二蛋白有限公司（吉林省）では、行動指針を提示し、日々のミーティングでリスク事例を挙げ、取り組んでいます。

持続的成長を支える体制

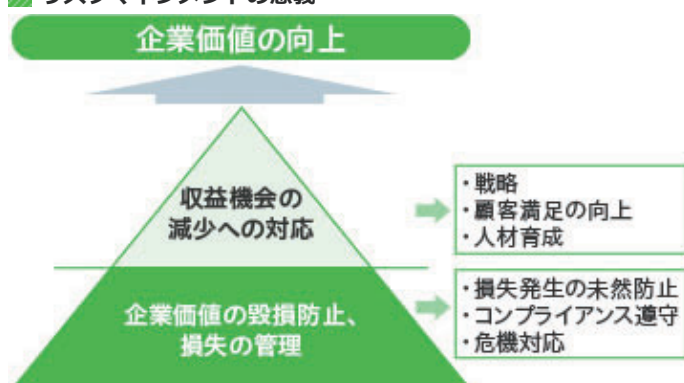
リスクマネジメント

基本的な考え方

リスクマネジメントには、突発的な大事故「クライシス」が発生した場合の損失を最小限に抑え、事業継続を徹底する「クライシス・マネジメント（危機管理）」と、クライシスの発生していない平時でも企業の目標・計画達成を阻害するような要因を見出し、顕在化する前に対策を講じるという「リスクマネジメント」の2つの側面があります。不二製油グループは、これを一体のものとして運営し、企業価値を維持・向上することを目指して活動しています。

グローバルに事業を展開することで生じる多様なリスクを最小化するために、2013年3月に「リスクマネジメント委員会」を設置しました。同委員会は2014年5月に「コンプライアンス委員会」と統合して「リスク・コンプライアンス委員会」となり、リスクマネジメントおよびコンプライアンスについてグループ全体を視野に入れた包括的な取り組みを行っています。

■ リスクマネジメントの意義



■ 不二製油グループ リスク・クライシス管理規程（抜粋）

第1条【総則】

本規程の目的は、企業活動に内在する各種リスク及びクライシス（リスクの顕在化）に適切且つ効果的に対処するため、その管理責任を定め、不二製油グループの経営資源の保全及び社会的責任を果たすことにある。

第2条【リスク・クライシス管理の基本】

リスク・クライシス管理の基本は、次のように要約できる。不二製油グループの全ての役員・従業員は、常にこれを留意しなければならない。

1. 業務遂行上に内在する各種リスク（補則参照）を洗い出し、それが現実のクライシスとなる確率や、発生した場合の社会や不二製油グループに及ぼす影響度を勘案して、効果的且つ合理的な対策を講じ継続的改善を行う。
2. クライシスが発生した場合に備え、その損害や被害を最小限に止めるとともに早急に復旧するための手順や対策を平素から立案し継続的改善に努める。
3. クライシス発生時の正確で迅速な情報収集及び伝達に加え、社外に対する情報開示の重要性を十分認識し、平素より準備を怠らない。

リスクマネジメント体制の構築

不二製油では、企業価値の毀損から自然災害などの危機の発生、将来の収益機会の減少までをリスクと捉え、その見える化を図るとともに、随時対策を実施し、企業価値の向上を図っています。

「安全品質環境委員会」、「企業風土委員会」、「リスク・コンプライアンス委員会」の3委員会が各担当分野でのリスク対応策の検討・報告などを行いますが、そのうち「リスク・コンプライアンス委員会」は全体のフォロー・調整その他リスク管理の一元化の役割も担っています。

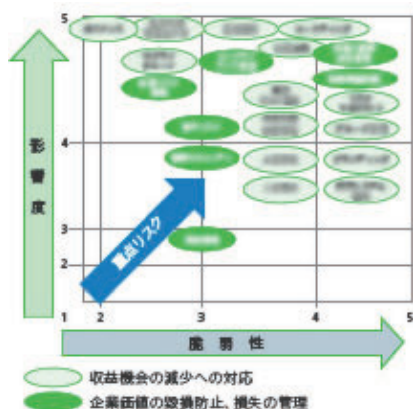
※ 委員会を含むガバナンス体制については「コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方」を参照

リスクアセスメントの実施とリスクマップの作成

不二製油グループでは、リスク管理にあたって、リスクの種類と事業への影響の大きさ（影響度）、不二製油グループのそのリスクへの脆弱さの度合い（脆弱性）を調査し、「リスクマップ」として見える化することとしています。

2012年度は、2013年2月、不二製油の全役員を対象に「リスクアンケート」を実施しました。調査の結果、影響度・脆弱性がともに高いと見られるリスク項目から、2013年度の重点リスクを決定しました。この際、関連部門の責任者にヒヤリングを実施したほか、外部識者の意見も参考としています。

不二製油グループのリスクマップ



グローバルなリスクの一元化

2013年度はグループ内で緊急事態が発生した際の対応体制の整備・ルール化に取り組み、2014年4月、社内関連規程を改訂しました。

今回整備した体制は、リスクマネジメント担当役員が緊急・重大な事態（自然災害、労働争議等）の発生時に情報をいち早く把握できる仕組みを整え、かつ適切な陣容での対策本部立上げを確保するものです。対策本部は、緊急事態下の現場との連絡体制を確保するとともに、グループを挙げた対応策の検討・策定を主導します。

重要となるのは各部署・グループ各社からの迅速な通報ですが、専用の電話番号・メールアドレス（休日・夜間も稼働）を設置し、国内外グループ会社へ周知しました。

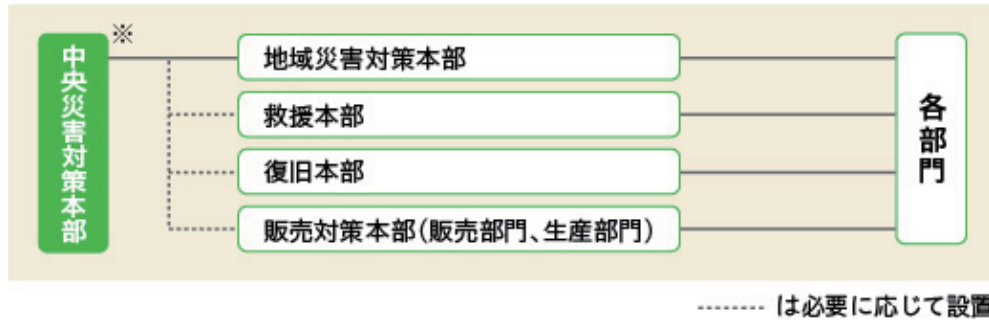
2014年度は、当社グループで一元化や体制の整備・ルール化などを進め、リスクに強い企業グループとしてステークホルダーからの信頼を得る取り組みを推進します。

大規模災害を想定した事業継続計画(Business Continuity Planning : BCP)の作成

不二製油では、大規模災害の発生を想定し、事業活動の継続あるいは迅速な再開に向けた手順を示した「地震災害事業継続計画」および「不二製油中央災害対策本部規定」をかねてから策定しています。

これに加えて、2014年度は、2013年に政府で見直された南海トラフ巨大地震の新想定に基づいた地震災害および、その他の巨大災害も含めた新たな事業継続計画の策定を進めます。

地震BCP体制図



※中央災害対策本部：

不二製油グループの事業所が、大規模地震に遭遇した場合に、従業員の安全確保および事業資産の保護、業務の早期復旧を図るための本部。社長、担当役員、経営会議メンバー、生産管理本部長、生産技術本部長、安全環境部長、技術開発部長、工務部長、カンパニー長、国内生産拠点を持つ部門長、人事部長、総務部長、ロジスティクス部長、資材部長、および中央本部長が必要と認めた者を構成員とする。

その他実施した施策

施策	実施時期	対象範囲	内容
グループとしての取り組み			
「不二製油中央災害対策本部規定」の策定	2012年4月	－	不二製油グループの事業所が大規模災害に遭遇した場合に、同本部を設置し、従業員の安全を確保するとともに事業資産を保護し、業務の早期復旧を図ることを規定。
避難訓練の実施	毎年	グループ 全事業所	各事業所にて年1回実施するとともに、支店や営業所にも積極的な参加を呼びかけ。
不二製油（株）および各事業所の取り組み			
衛星電話の設置	2011年11月	全事業所	緊急連絡用の衛星電話を不二製油の全事業所に設置（工場支店営業所など全14か所14台）。
各生産拠点向けの地震対策要領を策定	2012年4月	全生産拠点	災害時の対策や備蓄について定めた「地震対策要領」を策定。阪南事業所の容量をもとに他の拠点で策定を進めており、2012年度までに11拠点で策定済。
救護要員の育成	毎年	阪南事業所	救護本部の応援要員を募集し、消防署による救命講習を実施。2012年度は4回の講習で計56名が普通救命講習修了証を受領。
緊急事態における対応体制に関する規定	2014年5月	グループ	「緊急事態発生時のフロー」を設定し、リスク担当窓口を明確にし、対策本部設置など迅速な対応と可能に。

情報セキュリティ

技術対応の推進

不二製油グループでは、情報セキュリティの確保に向けた技術的な対応に継続的に取り組んでいます。2014年度はタブレット端末の導入を始めましたが、万が一の紛失・盗難の際も強固に情報漏洩を防止できる高度なセキュリティ管理ソフトを組み込むなどして、情報セキュリティを高めています。

ルールの策定と社員教育の徹底

情報セキュリティ向上には、厳密なルールを策定し、運用していくことが重要です。当社では「情報システムセキュリティ運用規程」を定め、それに基づく情報管理教育を実施しています。

2013年度は、SNS利用時に想定される脅威とその対策を分かりやすく説明するための「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を作成し、従業員への周知徹底を図りました。

2014年度はタブレット端末導入にあたって、管理ソフトによる技術的なセキュリティ施策とともに「タブレット端末利用規定」を作成して運用面での情報セキュリティ向上を図っています。

また、経済産業省の情報セキュリティ普及啓発事業として行われている情報セキュリティ対策講習会の受講なども計画しています。

知的財産権の尊重

知的財産権の取得と他社権利侵害を防ぐ体制の構築

不二製油グループでは、「不二製油グループ行動規範」に準じて、「社内発明等取扱規程」および「不二グループ知的財産管理規程」の中で、従業員の職務発明に基く知的財産権の取り扱いなどを定め、知的財産権を特許として権利化し、事業の保護を行っています。併せて、他社の権利侵害をすることのないよう他社権利を日常的に監視しています。

従業員の職務発明は会社に譲渡され会社に帰属するというルールですが、発明者はその対価として発明補償金を得ることができます。

知的財産権教育

当社では、知的財産権に関する知識の教育と発明の啓発を目的に、従業員に対する研修や勉強会を随時実施しています。

2013年度は、10月に入社6カ月後の研究開発職の新入社員を対象とした講習会（毎年実施）を実施し、知的財産権の概要や意義、社内発明等取扱規程の内容について説明しました。一方、入社2～3年目の研究開発職および技術開発職の従業員には、隔年で特許明細書作成研修を実施し発明の啓蒙を図っています。

また、毎年8月頃に開催する知財戦略会議では、開発主要メンバーを対象に知的財産制度に関する勉強会を開きました。今後も継続的に教育を実施しています。

持続的成長を支える体制

株主・投資家とのコミュニケーション

情報開示

基本的な考え方

不二製油は、2005年に、金融法・証券取引法に基づいて「不二製油グループ情報開示規則」を制定しました。この規則を踏まえて、ステークホルダーの皆様から正しい理解と信頼を得るために、積極的に適時・適切な情報開示を行うよう最大限努めています。

不二製油グループ 情報開示規則（抜粋）

第1条【総則】

情報管理基本方針、及び、情報管理基本規定の定めにより、且つ、東京証券取引所の「適時開示規則」、「金融商品取引法」及び「企業内容等の開示に関する内閣府令」に従い、情報開示に関する規則を定める。

第2条【情報開示の基本方針】

投資者への適時、適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹をなすものである事を十分認識し、常に投資者の視点に立ち、迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を徹底する。

より内容を理解いただきやすい株主総会・決算説明会の実施

不二製油は、2014年6月に第86回定時株主総会を開催し、812名の株主様に出席いただきました。

総会では、説明資料を投影するスクリーンを会場内に複数設置するとともに、総会前には当社の企業理念や事業について紹介する映像を投影するなど、より説明内容を理解いただきやすいよう工夫を凝らしています。併せて、株主の皆様がスムーズに議決権を行使できる環境の整備にも取り組んでいます。その一環として2012年から「議決権電子行使プラットフォーム」に参加しており、インターネットを通して議決権を行使できるようにすることで、円滑な議決権行使を可能としています。

食品業界紙の記者や証券アナリストの皆様を対象とする決算説明会は、社長出席のもと、年に2回開催しています。この際に用いた説明資料は迅速にホームページに掲載し、ご参加いただけなかった皆様にもご覧いただけるようにしています。



株主総会の様子

株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーション

不二製油では、株主・投資家の皆様の声をあまさず伺えるよう、株主総会・決算説明会のほか、株主総会後に株主懇談会を開催し、経営陣と株主とのコミュニケーションの機会を設けるようにしています。株主の皆様とコミュニケーションを図るとともに、テーマを定めてのパネル展示や製品紹介を行い、当社への理解を深めていただいています。2014年は、新中期経営計画「ルネサンス2016」を中心に展示しました。

人事総務とIR 広報部にそれぞれお問い合わせ窓口を設けており、株主総会招集通知や年次報告書などでご案内しています。

これらに加えて、機関投資家・証券アナリストの方とは個別にミーティングを実施し、ご意見を伺っています。

いただいたご意見やお問い合わせには誠実・丁寧に対応し、必要であれば随時経営に反映しています。

年次報告書・中間報告書の作成

不二製油は、決算短信や説明会資料を公開するのに加えて、業績に関する情報を簡潔にまとめた年次報告書・中間報告書を作成、発行しています。これらの報告書は、株主の皆様にお送りするとともにWEBサイトにも掲載しています。

報告書では、「わかりやすく、読みやすく」を基本方針に、図やグラフを多用すること、平易な表現で報告することなどを心がけ、専門家以外の方にも不二製油の戦略や業績が簡単に理解いただけるように工夫しています。また、報告書を株主の方にお送りする際にアンケートを同封し、ご回答を内容や表現の改善に役立てています。

これまでのアンケートでは、「情報量が豊富な会社案内や決算資料とは別に、コンパクトにまとまった資料があるのはありがたい」とのご回答もいただきました。今後も、より分かりやすい報告書づくりに取り組んでいきます。



報告書

利益還元

不二製油は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと考えています。経営基盤の強化や成長戦略のために必要となる内部留保資金は保持しながら、株主の皆様へ安定的かつ適正に利益を還元していくことを基本方針としています。

この方針に沿って、財務状況や利益水準、配当性向などを総合的に勘案しながら、配当金額を定め、配当を実施していきます。

